

2023年3月実施

「大学校風をめぐる意識調査（アンケート）」集計報告

2023年10月

科学研究費助成事業 基盤研究（C） 課題番号 22K02705

「大学校風の指標可視化と大学評価への活用に向けた実証的研究」

岩手大学 大川 一 毅（研究代表者）

鳥取大学 大野 賢 一

茨城大学 寫田 敏 行

筑紫女学園大学 山本 尚 史

福岡女学院大学 井上 美 香 子

# 目次

## はじめに

### 調査実施にあたって

(目的、対象と実施時期、回答方法、設問の構成) ..... 2

本調査における「大学校風」の定義 ..... 3

## 回答集計

### 設問Ⅰ 回答数と回答者さまのご所属について

(回答数、お立場、大学規模、大学の設置時期) ..... 3

### 設問Ⅱ 校風要素に関する設問 ..... 4

(1. 校風に関する意識の強度) ..... 4

(2. 校風を形成する背景・要因に関する意識の強度) ..... 11

### 設問Ⅲ 校風を活かした大学運営へのご教示をいただく設問 ..... 13

(1. 校風を実感する時、契機、状況) ..... 13

(2. 事例紹介・補足・自由記述) ..... 17

(3. 校風を活かした事業（取り組み、行事）の紹介・自由記述 ..... 18

(4. 校風を活かした事業への期待や提案・自由記述) ..... 22

(5. 在学生や入学生に継承してほしい校風・自由記述) ..... 23

### 設問Ⅳ 「自由」という校風をめぐる設問 ..... 27

(1. 「自由」という校風の実感) ..... 27

(2. 「自由」という校風の実感経験・自由記述) ..... 29

(3. 「自由」という校風の効果と課題・自由記述) ..... 32

### 最終設問（「大学校風」に関する考え、経験・自由記述） ..... 38

## 研究メンバー

..... 40

## はじめに

2023年3月に「大学校風をめぐる意識調査(アンケート)」を実施し、355回答をいただきました。ご協力の各位に心より御礼申し上げます。集計がまとまりましたので結果報告をいたします。

どの学校・大学にも「校風」があります。学生にとってポジティブ(建設的・積極的)に感じられる校風は、大学諸活動の意欲を促進します。それは保護者にとっても嬉しいことです。そうした校風ならば、志願者にも魅力的に映りましょう。卒業生ならば、よき校風に恵まれた思い出は母校愛につながることでしょう。大学に対する社会からの評価や評判も、少なからず校風に起因しています。大学にとって、校風はそれぞれの「アイデンティティ(他とはっきり区別されるそれぞれの個性)」です。しかしながら、これまで校風をテーマとした大学・高等教育研究はほとんどありませんでした。

こうした現状をふまえ、校風に関する大学関係者の様々な言及を集め、その分析や類型化を行い、それを大学のさらなる発展に資することを意図した研究に着手しました。その一環である本アンケートは「大学校風」をテーマとした初めての全国的調査であり、国公私立大学、校友会・同窓会、教育後援会(保護者会)等、約2000箇所へ発送し、関係者に回答を依頼したものです。いただきました回答からは、校風に対する各位の様々な認識を確認できました。ご回答からは、お立場により校風認識やお考えの違いがあることも把握できました。校風の形成につながる各大学独自の取り組みも教示いただきました。

現在、大学を取り巻く環境は厳しいものがあります。こうした状況下にあって、学生、卒業生、教職員、保護者がそれぞれ大学校風のあり方を認識し、その個性を高めながら大学の発展や学生のよりよい学びに向けて協働することは重要な課題となりましょう。必要に応じてこの調査集計報告をご活用いただき、各大学・学園のみならず、同窓会・保護者後援会事業の充実一助となれば幸甚です。

今回調査の結果概略については、すでに日本高等教育学会(2023年6月)で報告させていただきました。今後もさらなる結果分析を進め、関連学会のみならず広く社会に伝えていきたいと考えております。

本調査に関し、今後の分析視点や事例研究調査などのご要望、ご意見等ございましたら、ご教示よろしくお願いたします。また、私どもでお役に立つことがございましたら、お気兼ねなくご連絡願います。

2023年10月30日

岩手大学 教授(評価室)

研究代表者 大川 一毅



本アンケート調査は、日本学術振興会「科研費 22K02705」の助成を受けて実施するものです。

基盤研究(C)「大学校風の指標可視化と大学評価への活用に向けた実証的研究」 課題番号 22K02705

研究代表者: 大川 一毅

研究分担者: 大野 賢一、 嶋田 敏行、 山本 尚史、 井上 美香子

## 調査実施にあたって

### 1. 実施目的 (大学校風への着眼)

本研究者らは、これまで科学研究費助成事業として実施してきた「大学における卒業生サービス」研究(2011～2014)や「卒業生組織(同窓会)」研究(2015～2018)、及び「教育後援会(保護者会)」研究(2019～2023)等の知見から大学における校風は、学生・教職員・卒業生・保護者それぞれの大学諸活動になんらかの影響があることを把握した。また「校風に関わる取り組み(事業)」は、大学構成員それぞれの立場で関与可能な「行動目標」になりうるという発見事実もあった。大学のそれぞれ校風が、各大学の社会一般的な評価やイメージにも影響していることは多くの者が経験的に認識している。もし大学が自らの魅力を強化する事業を企図するならば「校風を基盤としうる施策」を選択する方が実行・実現性は高く、参加者の意識共有も容易となろう。

しかし、これまで「校風」は高等教育研究の題材として看過されてきた。これには「校風の実質」が曖昧なことにあるのかもしれない。そこで校風の要素を具体的に把握し、さらにこれを検証可能な可視的指標に代えることはできないだろうかと課題設定した。これにあたり、まず大学構成員・関係者から「校風に関する意識(実感)」や「校風を活用した教育・研究の事例」等を収集することから研究着手した。その集計結果をふまえて大学の価値を新たな側面から認識する評価項目・指標の策定につなげ、さらにこれを活用して「大学の個性化・活性化」を導く大学評価のありかたの検討を意図している。今回調査は、こうした研究目的の一環として実施するものあり、本書はその集計結果を報告する。

### 2. 調査対象と実施時期

調査は2023年3月に、全国大学の広報担当777部署、校友会(同窓会)643事務局、教育後援会(保護者会)534事務局などに依頼した。回答者は任意とし、組織としての見解ではなく、あえて回答者個人のそれぞれの主観的回答を要望した。締め切りは同年4月末日に設定して355回答あった。

### 3. 回答方法

回答依頼にあたっては、調査実施趣旨文書と回答用紙を回答依頼先に郵送した。回答にあたり、オンラインでの回答を可能とした他、電子メールを使用したファイル添付回答や紙面回答郵送も可とした。回答は無記名で実施し、一組織一回答に制限せず、同一組織から複数の回答も推奨した。

### 4. 設問構成

設問は、1) 回答者の属性情報、2)校風要素の認識、3)校風を活かした大学運営への教示、4)校風要素「自由」に対する考えや経験、の4区分を内容とし、「単一回答」、「多肢選択法」、「自由記述欄」を組み合わせた。

## 「大学校風」の定義について

本調査では「大学校風」について、「大学校風とはその大学独自の雰囲気や気風を言うこととする」とまず定義した。その上で「校風は建学の精神と関わりながらも同一ではない。校風は歴史的伝統、地理的環境などにも影響を受け、大学の様々な構成員により世代にわたって可塑的に醸成・継承され、ときに刷新される」と説明した。また「校風は大学をある方向性に動かしていく自覚的・無自覚的な働きであり、その大学たらしめるアイデンティティともいえる」と補足した。

## 回答集計

### 設問Ⅰ 回答数と回答者さまのご所属について(回答数、お立場、大学規模、大学の歴史)

#### 回答状況

今回の調査結果を集計する2022年4月末日までの最終回答数は355件であった。

回答者について、回答数全体の半数強が大学職員であり、大学教員及び同窓会関係者が約2割。保護者組織の回答は少なかった(国立大学関係組織からはゼロ)。その他は「学生」あるいは「卒業生(同窓会関係者以外)」などである。

	大学教員	大学職員	卒業生組織	保護者組織	その他	総計
国立大学	34	46	12	--	8	100
公立大学	5	28	15	6	1	55
私立大学	25	128	37	8	2	200
総計	64	202	64	14	11	355

回答者が関与する「大学の規模」をみるならば、国立大学は中規模大学、公立大学は小規模大学、私立大学は中・小規模大学からの回答数が多い。

	大規模大学	中規模大学	小規模大学	総計
国立大学	8	72	20	100
公立大学	2	12	41	55
私立大学	31	91	78	200
総計	41	175	139	355

回答者が関係する大学の「設置時期」については、戦後昭和期設置の「新制大学」が半数強であった。国・私立大学は「旧制大学」系譜の関係者、公・私立大学は「平成以降」の新設大学関係者からの回答も多く届いた。

	戦前に設置	戦後に設置	平成以降に設置	その他 (未回答も含む)	総計
国立大学	23	64	10	3	100
公立大学	3	20	30	2	55
私立大学	36	110	52	2	200
総計	62	194	92	7	355

## 設問Ⅱ 校風要素に関する設問

1. ご自身が関与する大学の校風（大学独自の雰囲気や気風）をどうお感じですか。下段表の各項目について、お感じになる「強度」を1つ選び、回答して下さい。あくまで主観での判断で結構です。

### 【設問Ⅱの出題意図】

回答選択肢で提示した項目は、全国大学のホームページで言及されている「校風」の記載をテキスト分析し、そこで抽出事例が多かった上位51項目の「校風要素」である。設問Ⅱは、大学関係者にこれら校風要素について、「どれが」「どれほど」実感されているかを調査・検証することを目的とした。

### 「校風に関する意識」 回答比率の高い項目(全体)

肯定的回答比率が高い項目 (五段階選択回答のうち、肯定的回答「5 強く感じる 4 感じる」の比率)

認識する校風要素	回答数	回答比率	順位
学生を大切にする	286	81%	1
教員と学生の距離が近い	280	79%	2
地域や社会との関係が強い	267	75%	3
誠実・実直(真面目・地道)な気風	256	72%	4
のんびり、穏やかな気風	255	72%	5
家庭的、アットホームな雰囲気	242	68%	6
おおらかな気風	236	66%	7
あたたかさ、ぬくもりがある	228	64%	8
明るい気風	227	64%	9
静かで落ち着いた	225	63%	10
価値観が継承されている	221	62%	11
学生が伸びていく	219	62%	12
自由である	216	61%	13
主体性を尊重する	216	61%	13
勉学に熱心	213	60%	15
教育重視の気風	211	59%	16
学生が元気である	204	57%	17
保守的な気風	200	56%	18
努力する気風	194	55%	19
独自性がある(ユニーク)	193	54%	20
友人、先輩・後輩が増える	193	54%	20
職業志向の雰囲気がある	190	54%	22
挑戦・探求を尊重する	188	53%	23
建学者の存在感がある	184	52%	24

### 【ポイントまとめ】

- ・校風認識について、全体として「学生を大切にする」、「教員と学生の距離が近い」を回答する比率が高い。
- ・「真面目、のんびり、おおらか」なども自学の校風として肯定する回答比率が高かった。
- ・「2022年 web 調査」では「真面目、のんびり、おおらか」の校風を重視・高評価する言及を多く確認した。今回調査でもこの項目について校風認識比率が高いことをあらためて確認できた。
- ・認識する校風要素として「5 強く感じる 4 感じる」と回答されたこれらの上位項目は、多くの大学共通で認識される「校風要素」といえる。

回答比率については小数点以下での多寡があるため、同じ表中数値でも順位が異なる場合がある。



否定的回答比率が高い項目（五段階選択回答のうち、否定的回答「5 全く感じない 4 あまり感じない」の比率）

認識しない校風要素	回答数	回答比率	順位
芸術尊重の雰囲気がある	175	49%	1
先進、進取の気風	139	39%	2
国際性(グローバル感)がある	129	36%	3
気品がある。洗練されている	119	34%	4
建学者の存在感がある	109	31%	5
研究重視の気風	109	31%	5
質実剛健な気風	97	27%	7
礼儀作法、マナーを重視	86	24%	8
母校愛、一体感がある	80	23%	9
創造力がある	79	22%	10
独自性がある(ユニーク)	73	21%	11
活気や賑わいがある	72	20%	12
開放的である	72	20%	12
職業志向の雰囲気がある	69	19%	14
価値観が継承されている	64	18%	15
挑戦・探求を尊重する	62	17%	16
多様性(ダイバーシティ)を尊重	62	17%	16
学生に個性がある	60	17%	18
教育重視の気風	48	14%	19
自由である	47	13%	20
努力する気風	46	13%	21
勉学に熱心	44	12%	22
主体性を尊重する	42	12%	23
おおらかな気風	41	12%	24

#### 【ポイントまとめ】

- ・「国際性(グローバル感)がある」、「先進、進取の気風」、「気品がある。洗練されている」、「芸術尊重の気風」などは、必ずしも多くの大学で認識される校風要素ではない。しかし見方によれば、その「校風」があるならば、それは大学の強い個性(校風)となりうる。
- ・昨今、多くの大学では「グローバル化」の推進に力を入れている。一方で回答結果からは「グローバル、国際化」が校風として定着している大学は少ないといえる。とはいえこれら校風をふまえた事業の取り組みは自由記述回答で少なからず報告されている(20頁の自由記述参照)。

・「5 全く感じない 4 あまり感じない」と否定的回答された校風項目について、回答比率自体は必ずしも高くない。

※ 設問 I について、肯定的回答と否定的回答の上位では共通する項目も多い。

(肯定的回答項目の上位は否定的回答項目にも散見される)

## 回答者属性別集計結果

### 大学教員回答 回答数 64

肯定的回答比率が高い項目 (五段階選択回答のうち、肯定的回答「5 強く感じる 4 感じる」の比率)

認識する校風要素	回答数	回答比率	順位
学生を大切にする	49	77%	1
のんびり、穏やかな気風	47	73%	2
教員と学生の距離が近い	47	73%	2
静かで落ち着いている	46	72%	4
保守的な気風	44	69%	5
地域や社会との関係が強い	43	67%	6
家庭的、アットホームな雰囲気	39	61%	7
学生が伸びていく	39	61%	7
おおらかな気風	38	59%	9
誠実・実直(真面目・地道)な気風	38	59%	9
教育重視の気風	36	56%	11
職業志向の雰囲気がある	36	56%	11
勉学に熱心	35	55%	13
自由である	34	53%	14
独自性がある(ユニーク)	34	53%	14
価値観が継承されている	32	50%	16
明るい気風	32	50%	16

#### 【ポイントまとめ】

- ・回答傾向は全体回答項目と類似。
- ・教員回答では「学生を大切にする」、「教員と学生の距離が近い」等をはじめ、学修活動や学生指導、学生との関係などの教学的側面から自学校風を認識していた。
- ・だとすれば、そうした教学的側面において教員も校風形成に関与している(関わるができる)。
- ・「地域や社会との関連が近い」などの回答比率も高い。教員としての研究・社会貢献に関わる認識だろうか。

否定的回答比率が高い項目 (五段階選択回答のうちの否定的回答「5 全く感じない 4 あまり感じない」の比率)

認識しない校風要素	回答数	回答比率	順位
国際性(グローバル感)がある	29	45.3%	1
先進、進取の気風	28	43.8%	2
気品がある。洗練されている	24	37.5%	3
芸術尊重の雰囲気がある	23	35.9%	4
創造力がある	21	32.8%	5
質実剛健な気風	17	26.6%	6
挑戦・探求を尊重する	17	26.6%	6
礼儀作法、マナーを重視	16	25.0%	8
活気や賑わいがある	16	25.0%	8
価値観が継承されている	16	25.0%	8
多様性(ダイバーシティ)を尊重	16	25.0%	8
母校愛、一体感がある	16	25.0%	8
努力する気風	14	21.9%	13
開放的である	14	21.9%	13
学生に個性がある	13	20.3%	15
勉学に熱心	13	20.3%	15
研究重視の気風	12	18.8%	17
主体性を尊重する	12	18.8%	17
自由である	11	17.2%	19
建学者の存在感がある	10	15.6%	20
あたたかさ、ぬくもりがある	10	15.6%	20
明るい気風	9	14.1%	22
独自性がある(ユニーク)	9	14.1%	22

#### 【ポイントまとめ】

- ・今日の大学が「志向する側面」、「要請される側面」である「国際性(グローバル)」や「多様性(ダイバーシティ)」について、自学校風として実感する意識は低い。(教員はそれぞれの大学校風として「グローバル」や「ダイバーシティ」を感じていない)
- ・否定的回答比率にあって「母校愛、一体感がある」は上位である(自学校風として「母校愛」「母校愛、一体感」が強いとは思えない)。それが大学の現実なのか。それとも教員だから抱く意識なのか。
- ・「自由」という校風について、これを感じる教員の回答比率は 5 割以上であった。一方で否定的認識回答をした教員も一定数(28%)ある。
- ・「自由」についての否定的認識回答について、補足・自由記述の回答をみるならば、教員に対する大学側からの「管理運営姿勢」が影響している場合があるかもしれない。



## 大学職員回答 回答数 202

肯定的回答比率が高い項目 (五段階選択回答のうち、肯定的回答「5 強く感じる 4 感じる」の比率)

認識する校風要素	回答数	回答比率	回答順位
学生を大切にする(指導、支援)	169	84%	1
教員と学生の距離が近い	164	81%	2
地域や社会との関係が強い	153	76%	3
誠実・実直(真面目・地道)な気風	145	72%	4
家庭的、アットホームな雰囲気	144	71%	5
のんびり、穏やかな気風	136	67%	6
あたたかさ、ぬくもりがある	133	66%	7
おおらかな気風	132	65%	8
価値観が継承されている	129	64%	9
明るい気風	127	63%	10
学生が伸びていく	125	62%	11
主体性を尊重する	122	60%	12
学生が元気である	122	60%	12
教育重視の気風	121	60%	14
勉学に熱心	118	58%	15
静かで落ち着いている	116	57%	16
自由である	115	57%	17
挑戦・探求を尊重する	112	55%	18
保守的な気風	112	55%	18
努力する気風	112	55%	18
建学者の存在感がある	111	55%	21

### 【ポイントまとめ】

- ・教員回答と同様に大学職員も「学生を大切にする」、「教員と学生の距離が近い」などの学生指導を中心とした教学的側面を自学校風として認識する回答比率が高い。
- ・「地域性・社会との関係が強い」の校風認識回答比率が高いのも教員と同様。
- ・「建学者の存在感がある」の校風認識は国公立大学を含めて55%の回答比率となる。これは教員回答比率35%を上回る。
- ・「価値観が継承されている」の校風認識も大学職員回答比率(64%)の方が教員回答比率(50%)よりも高い。

- ・これらをつまめるならば、大学の「理念・ミッション」や「建学精神」に関わる校風認識は、教員よりも大学職員の方が強い。

※「大学の理念・ミッション」の継承は、教員よりも大学職員がその役割の多くを担っているのかも知れない。

否定的回答比率が高い項目 (五段階選択回答のうちの否定的回答「5 全く感じない 4 あまり感じない」の比率)

認識しない校風要素	回答数	回答比率	回答順位
芸術尊重の雰囲気がある	100	50%	1
先進、進取の気風	83	41%	2
研究重視の気風	75	37%	3
気品がある。洗練されている	73	36%	4
国際性(グローバル感)がある	72	36%	5
建学者の存在感がある	57	28%	6
質実剛健な気風	55	27%	7
母校愛、一体感がある	46	23%	8
独自性がある(ユニーク)	44	22%	9
開放的である	44	22%	9
礼儀作法、マナーを重視	41	20%	11
創造力がある	40	20%	12
職業志向の雰囲気がある	38	19%	13
活気や賑わいがある	36	18%	14
価値観が継承されている	33	16%	15
自由である	32	16%	16
挑戦・探求を尊重する	32	16%	16
学生に個性がある	30	15%	18
多様性(ダイバーシティ)を尊重	28	14%	19
おおらかな気風	26	13%	20
努力する気風	25	12%	21
主体性を尊重する	24	12%	22
教育重視の気風	24	12%	22

### 【ポイントまとめ】

- ・「母校愛、一体感がある」の否定的回答比率について、数値自体は20%台ではあるが、全体の回答順位として上位にある。このことは、「母校愛、一体感がある」の校風が希薄である大学の現状について、職員が感じる「危機意識」を反映しているのか。
- ・「研究重視の気風」を実感しない回答比率は教員回答よりも上位となる。
- ・「先進、進取の気風」の校風について、否定的な回答比率が高いのは、教員回答と同様。

卒業生組織(同窓会・校友会)回答 回答数 64

肯定的回答比率が高い項目 (五段階選択回答のうち、肯定的回答「5 強く感じる 4 感じる」の比率)

認識する校風要素	回答数	回答比率	順位
誠実・実直(真面目・地道)な気風	53	83%	1
地域や社会との関係が強い	53	83%	1
教員と学生の距離が近い	53	83%	1
明るい気風	52	81%	4
学生を大切にする(指導、支援)	51	80%	5
のんびり、穏やかな気風	49	77%	6
価値観が継承されている	48	75%	7
おおらかな気風	48	75%	7
自由である	47	73%	9
あたたかさ、ぬくもりがある	47	73%	9
友人、先輩・後輩が増える	47	73%	9
主体性を尊重する	46	72%	12
勉学に熱心	46	72%	12
家庭的、アットホームな雰囲気	45	70%	14
静かで落ち着いている	45	70%	14
学生が伸びていく	44	69%	16
母校愛、一体感がある	43	67%	17
建学者の存在感がある	40	63%	18
独自性がある(ユニーク)	40	63%	18
学生が元気である	40	63%	18
教育重視の気風	39	61%	21
活気や賑わいがある	39	61%	21

【ポイントまとめ】

- 卒業生や同窓会の回答では、学生時代の諸活動経験や大学の雰囲気、教学環境などをふまえて認識した校風要素の比率が高い。
- 卒業生や同窓会の回答では、「明るい」、「のんびり・穏やか」、「おおらかな」、「あたたかさ・ぬくもり」、「活気・賑わい」など、学生時代の大学の雰囲気やキャンパスライフ経験・環境に由来する視覚的・感覚的な校風認識の回答比率も少なくない。
- 学生時代の交友経験(人的環境)に由来した校風や、「自由である」という回答比率も教員、職員の回答比率より高くなる。
- 同窓会組織ゆえに「母校愛、一体感がある」という校風認識について、肯定も否定も回答比率上位となる。  
また、大学の特徴や価値観ふまえた校風認識の回答比率も他の回答者集団に比べて高くなる。

否定的回答比率が高い項目 (五段階選択回答のうちの否定的回答「5 全く感じない 4 あまり感じない」の比率)

認識しない校風要素	回答数	回答比率	順位
芸術尊重の雰囲気がある	25	39%	1
建学者の存在感がある	15	23%	2
国際性(グローバル感)がある	15	23%	2
先進、進取の気風	14	22%	4
質実剛健な気風	13	20%	5
独自性がある(ユニーク)	11	17%	6
礼儀作法、マナーを重視	11	17%	6
多様性(ダイバーシティー)を尊重	11	17%	6
学生に個性がある	11	17%	6
職業志向の雰囲気がある	10	16%	10
教育重視の気風	9	14%	11
研究重視の気風	9	14%	11
気品がある。洗練されている	9	14%	11
活気や賑わいがある	9	14%	11
創造力がある	8	13%	15
挑戦・探求を尊重する	8	13%	15
保守的な気風	8	13%	15
開放的である	7	11%	18
母校愛、一体感がある	7	11%	18
家庭的、アットホームな雰囲気	6	9%	20
学生が元気である	6	9%	20
学生が伸びていく	6	9%	20

【ポイントまとめ】

- 卒業生組織の回答においても「国際性」、「ダイバーシティー」など、昨今大学が積極的に取り組む項目を「自学校風」として意識する回答は少ない。
- 「建学者の存在感がある」の校風意識は、肯定的回答比率も高かったが、否定的回答比率にあっては最上位に近い。
- 卒業生にとって「建学者」はそれぞれの大学生活に「無縁の存在」だったのか。ただし、否定的回答の大半が国公立大学の卒業生組織関係者からの回答であった。
- 自由記述では「建学の精神」を大切にしたい旨の回答が多かった。

保護者組織(教育後援会・保護者会)回答 回答数 14

肯定的回答比率が高い項目 (五段階選択回答のうち、肯定的回答「5 強く感じる 4 感じる」の比率)

校風要素	回答数	回答比率	順位
のんびり、穏やかな気風	12	86%	1
学生を大切に(指導、支援)	11	79%	2
教員と学生の距離が近い	11	79%	2
自由である	10	71%	4
教育重視の気風	10	71%	4
誠実・実直(真面目・地道)な気風	10	71%	4
主体性を尊重する	9	64%	7
勉学に熱心	9	64%	7
おおらかな気風	9	64%	7
努力する気風	9	64%	7
静かで落ち着いている	9	64%	7
あたたかさ、ぬくもりがある	9	64%	7
学生が伸びていく	9	64%	7
友人、先輩・後輩が増える	9	64%	7
価値観が継承されている	8	57%	15
挑戦・探求を尊重する	8	57%	15
明るい気風	8	57%	15
保守的な気風	8	57%	15
建学者の存在感がある	7	50%	19
家庭的、アットホームな雰囲気	7	50%	19
地域や社会との関係が強い	7	50%	19
職業志向の雰囲気がある	7	50%	19

【ポイントまとめ】

- ・保護者組織(教育後援会)の回答では、「のんびり、穏やかな気風」、「おおらかな気風」、「静かで落ち着いている」、「暖かさ、ぬくもりがある」といった平穏な学修環境に関わる校風、あるいは「学生を大切に」、「教員と学生の距離が近い」、「教育重視の気風」などの学生重視の大学気風、そして「誠実・実直な気風」、「勉学に熱心」、「努力する気風」など子弟の学習意欲やその姿勢を促す教学環境といった校風認識の回答比率が高い。保護者の立場から大学に期待する教学環境や、それらの満足感が反映されたものといえようか。
- ・保護者組織回答では「国際性」、「多様性」、「独自性」など昨今大学が望む方向性(校風)を認識する回答比率は高くない(大学の積極的な取り組みや事業に関わる校風を意識する回答は少ない)。むしろ子弟子女の成長や保護育成に関わる校風を認識している。

否定的回答比率が高い項目 (五段階選択回答のうちの否定的回答「5 全く感じない 4 あまり感じない」の比率)

校風要素	回答数	回答比率	順位
芸術尊重の雰囲気がある	8	57%	1
開放的である	5	36%	2
国際性(グローバル感)がある	5	36%	2
独自性がある(ユニーク)	4	29%	4
研究重視の気風	4	29%	4
気品がある。洗練されている	4	29%	4
先進、進取の気風	4	29%	4
質実剛健な気風	4	29%	4
母校愛、一体感がある	4	29%	4
礼儀作法、マナーを重視	4	29%	4
価値観が継承されている	3	21%	11
活気や賑わいがある	3	21%	11
あたたかさ、ぬくもりがある	3	21%	11
多様性(ダイバーシティ)を尊重	3	21%	11
創造力がある	2	14%	15
保守的な気風	2	14%	15
地域や社会との関係が強い	2	14%	15
職業志向の雰囲気がある	2	14%	15

【ポイントまとめ】

- ・教育後援会(保護者)の立場からすると、研究的側面や地域性などの校風についての認識度は低くなる。
- ・教育後援会(保護者)の校風認識「否定的回答」の上位は、保護者の立場から認識しにくい項目なのか、それとも保護者の「関心外」の項目なのか、あるいは「大学への不満・ものたりなさ」の反映(意思表示)なのか。
- ・教育後援会の校風認識と関わる肯定上位及び否定上位の項目は、ステークホルダーである保護者(教育後援会)のニーズやその満足度を検証する指標となるかも知れない。

【回答者属性集計別回答 全体まとめ】

今回回答をみるならば、世間一般で「大学の校風」として認識されやすい「国際性」、「独自性」、「気品」、「先進・進取の気風」、「質実剛健」といった要素(項目)は、大学関係者に校風として思いのほか実感されていない。それゆえそれら校風が「実感できる大学」は「個性がある」、「アイデンティティがある」と肯定的に認識される可能性がある。



「校風に関する意識」 設置者別回答 回答比率の高い項目(設置別回答比率)

「校風に関する意識」の回答項目比率を設置者別で確認する。(回答者が関係する大学の国公立別)

強く認識する校風要素	全回答件数	全回答比率	順位	国立100	公立55	私立200
学生を大切にする(指導、支援)	286	81%	1	74%	82%	84%
教員と学生の距離が近い	280	79%	2	69%	84%	83%
地域や社会との関係が強い	267	75%	3	75%	82%	74%
誠実・実直(真面目・地道)な気風	256	72%	4	74%	69%	72%
のんびり、穏やかな気風	255	72%	5	73%	76%	70%
家庭的、アットホームな雰囲気	242	68%	6	52%	75%	75%
おおらかな気風	236	66%	7	63%	58%	71%
あたたかさ、ぬくもりがある	228	64%	8	49%	53%	71%
明るい気風	227	64%	9	50%	67%	70%
静かで落ち着いている	225	63%	10	78%	76%	53%
価値観が継承されている	221	62%	11	39%	64%	74%
学生が伸びていく	219	62%	12	47%	60%	70%
自由である	216	61%	13	58%	60%	63%
主体性を尊重する	216	61%	13	49%	73%	64%
勉学に熱心	213	60%	15	68%	75%	52%
教育重視の気風	211	59%	16	56%	64%	60%
学生が元気である	204	57%	17	48%	42%	67%
保守的な気風	200	56%	18	22%	40%	58%
努力する気風	194	55%	19	55%	64%	52%
独自性がある(ユニーク)	193	54%	20	51%	53%	57%
友人、先輩・後輩が増える	193	54%	20	47%	45%	61%
職業志向の雰囲気がある	190	54%	22	45%	55%	58%
挑戦・探求を尊重する	188	53%	23	49%	55%	55%
建学者の存在感がある	184	52%	16	54%	33%	75%

7割以上の回答比率枠を着色

上位回答項目(7割以上の回答比率項目を提示)

<b>全体</b>	1位 学生を大切にする(指導、支援)	4位 誠実・実直(真面目・地道)な気風
	2位 教員と学生の距離が近い	5位 のんびり、穏やかな気風
	3位 地域や社会との関係が強い	6位 家庭的、アットホームな雰囲気
(回答全体での低回答比率項目「芸術尊重の雰囲気がある」「先進・進取の気風」「国際性がある」)		
<b>国立大学</b>	1位 静かで落ち着いている	3位 誠実・実直(真面目・地道)な気風
<b>関係者</b>	2位 地域や社会との関係が強い	5位 のんびり、穏やかな気風
	3位 学生を大切にする(指導、支援)	
(国立大学関係者の低回答比率項目:「職業志向の雰囲気がある」「価値観が継承されている」「保守的な気風」)		
<b>公立大学</b>	1位 教員と学生の距離が近い	4位 静かで落ち着いている
<b>関係者</b>	2位 地域や社会との関係が強い	4位 のんびり、穏やかな気風
	2位 学生を大切にする(指導、支援)	
(公立大学関係者の低回答比率項目:「学生が元気である」「保守的な気風」「建学者の存在感がある」)		
<b>私立大学</b>	1位 学生を大切にする(指導、支援)	4位 家庭的、アットホームな雰囲気
<b>関係者</b>	2位 教員と学生の距離が近い	5位 地域や社会との関係が強い
	3位 建学者の存在感がある	6位 価値観が継承されている
(私立大学関係者の低回答比率項目:「静かで落ち着いている」「勉学に熱心」「努力する気風」)		

【ポイントまとめ】

- ・国、公立大学関係者は「学生尊重」や「地域性」に関する校風や「のんびり」「静かで落ち着いている」などの回答比率が高い。
- ・国立大学関係者は「価値観の継承」や「保守的な気風」は低回答比率。
- ・私立大学関係者は「価値観の継承」や「建学者の存在感」が高回答比率。

## 設問Ⅱ 校風要素に関する設問

2. あなたが関与する大学にあって、その校風の形成や醸成に影響していると考えられる背景（要因）の「強度」を1つ選び、回答して下さい。あくまで主観での判断で結構です。

### 【この設問の意図】

大学における校風はどのような要素・要因で形成されるのか。2022年度 web 調査で抽出把握した「校風形成に影響すると考えられる背景（要因）」を34項目提示し、これを実証的に検証すべく、選択5件法でそれぞれ項目の要因強度認識を回答者に求めた。

### 校風を形成する要素・要因（回答数 355。回答比率 50%以上を掲載）

#### 全体回答

順位	校風形成の影響要因	件数	割合
1	大学の立地(分散、統合、所在地、など)	289	81%
2	教員と学生との距離の近さ	277	78%
3	キャンパスの景観	237	67%
3	学生(友人、上級生・下級生)同士の交流	237	67%
5	地方大学である	226	64%
6	地域の人々との交流	225	63%
7	実学教育を重視	219	62%
8	地域内、県内の出身学生数	209	59%
9	教育・研究施設の状態	208	59%
10	資格取得教育を重視	207	58%
11	卒業生の母校意識	193	54%

### 【ポイントまとめ】

- 全体回答結果を概観すれば、「大学の立地(81%)」の回答比率がもっとも高い。また「キャンパスの景観(67%)」の回答比率も高い。大学校風を形成する背景・要因として、立地・景観・環境のあり方が強く認識されている。
- 「教員と学生の距離の近さ(78%)」、「学生同士の交流(67%)」、「地域の人々との交流(63%)」といった回答比率も高く、人的交流要因も校風形成に大きく関与すると認識されている。
- 「地域内、県内の出身学生数(59%)」の回答比率も半数を超える。立地と人的交流の両要素に関わる要因認識といえよう。
- 「実学教育を重視(62%)」、「教育・研究施設の状態(59%)」、「資格取得教育を重視(58%)」なども回答比率5割以上。大学の「教育特性」が校風に形成も反映されることを確認しうる回答結果となっている。

### 大学設置別回答

(回答数 355。全体回答比率 50%以上を掲載)

校風形成の影響要因(肯定的回答上位項目)	国立大学 (n=100)	公立大学 (n=55)	私立大学 (n=200)	全体 (n=355)
大学の立地(分散、統合、所在地、など)	82%	82%	81%	81%
教員と学生との距離の近さ	68%	84%	82%	78%
キャンパスの景観	57%	67%	72%	67%
学生(友人、上級生・下級生)同士の交流	58%	58%	74%	67%
地方大学である	78%	78%	53%	64%
地域の人々との交流	60%	75%	62%	63%
実学教育を重視	52%	71%	64%	62%
地域内、県内の出身学生数	59%	65%	57%	59%
教育・研究施設の状態	61%	62%	57%	59%
資格取得教育を重視	31%	65%	70%	58%
卒業生の母校意識	43%	49%	62%	54%



## 【ポイントまとめ】

### (国立大学関係者回答)

- ・「大学の立地(82%)」、「地方大学である(78%)」、「地域の人々との交流(60%)」、「地域内、県内の出身学生数(59%)」などに回答比率が高く、立地や地方性に校風形成の影響を認めている。
- ・「教員と学生の距離の近さ(68%)」、「教育・研究施設の状況(61%)」などの教育的側面も校風形成要素として認識されている。全体回答比率より回答比率が低かったのは、「実学教育を重視(52%)」、「資格取得教育を重視(31%)」であった。

### (公立大学関係者回答)

- ・公立大学関係者回答では「教員と学生の距離の近さ(84%)」、「地方大学である(78%)」、「地域の人々との交流(75%)」、「実学教育を重視(71%)」、「資格取得教育を重視(65%)」などが上位である。地域性と職業性を重視する公立大学の特性が、そのまま校風形成要素と認識される傾向がみとれる。
- ・「教員と学生との距離の近さ」の回答比率が高いのは、公立大学関係者回答にあつて医療系小規模大学の割合が35%を占めていたことにもあろう。国立大学でも教員1人あたりの学生数比率(ST比率)は低いはずだが、そのことを校風形成要素として認識する回答比率は公私立大学関係者よりも低い(68%)。国立大学ではST比率が低くとも「教員と学生との距離の近さ」という校風実感に至らないのか(国大学生は教員に「近寄り難さ」があるのか?)。

### (私立大学関係者)

- ・「キャンパスの景観(72%)」、「学生同士の交流(74%)」、「資格取得教育を重視(70%)」といった要素の回答が全体よりも高く、私学校風の形成要素・要因を垣間見る。
- ・都市部の設置が多い私立大学ゆえに、「地方大学である」ことの回答比率(53%)は他もより低い。

### 回答者属性別

(回答数 355。全体回答比率 50%以上を掲載)

校風形成の影響要因(肯定的回答上位項目)	大学教員 (n=64)	大学職員 (n=202)	卒業生組織 (n=64)	保護者組織 (n=14)	その他 (n=11)	全体 (n=355)
大学の立地(分散、統合、所在地、など)	78%	83%	84%	57%	91%	81%
教員と学生との距離の近さ	73%	82%	77%	79%	45%	78%
キャンパスの景観	64%	65%	80%	43%	73%	67%
学生(友人、上級生・下級生)同士の交流	52%	69%	78%	64%	55%	67%
地方大学である	77%	63%	56%	43%	73%	64%
地域の人々との交流	59%	66%	61%	43%	73%	63%
実学教育を重視	56%	64%	67%	36%	55%	62%
地域内、県内の出身学生数	63%	57%	61%	50%	73%	59%
教育・研究施設の状況	64%	58%	63%	36%	45%	59%
資格取得教育を重視	50%	58%	70%	71%	18%	58%
卒業生の母校意識	44%	52%	70%	57%	64%	54%

## 【ポイントまとめ】

### (教員回答)

- ・全体回答に比べて回答比率が高いのは「地方大学であること(77%)」、「教育・研究施設の状況(64%)」であり、大学の立地や教育研究環境を校風の形成要素と認識している。地方国立大学の教員回答が多かったことも影響しているよう。
- ・教員回答では「卒業生の母校意識(44%)」について、校風形成要素としての認識度は高くない。卒業生の母校意識が希薄なのか。教員がそれを認識する機会が少ないのか。所属大学への母校意識に教員は関心がないのか。

### (大学職員)

- ・「大学の立地(83%)」、「教員と学生との距離の近さ(81%)」を校風形成要素として強く認識し、教員回答比率よりも高い。「地域の人々との交流(66%)」の回答比率も他の回答者よりも高い。

### (卒業生組織回答)

- ・「キャンパスの景観(80%)」、「学生同士の交流(78%)」、「資格取得教育を重視(70%)」、「卒業生の母校意識(70%)」などの回答比率が高い。学生時代に過ごした大学の景観や交友関係の記憶等に由来する事項を校風形成要素として強く認識しているのか。
- ・卒業生組織の回答では「地方大学(56%)」の回答比率は全体に比べて低い。

### (保護者組織回答)

- ・保護者組織からの本設問に対する回答数は少なかったが、「教員と学生との距離の近さ(79%)」や「資格取得教育を重視(71%)」などは、全体の回答比率よりも高かった。
- ・「大学の立地(57%)」、「キャンパスの景観(43%)」、「地方大学(43%)」、「地域の人々との交流(43%)」などは他の属性回答者と比べて回答比率は低い。立地、景観、地域性には校風形成要素としての認識はさほどないのか。

## 設問Ⅲ 校風を活かした大学運営へのご教示をいただく設問

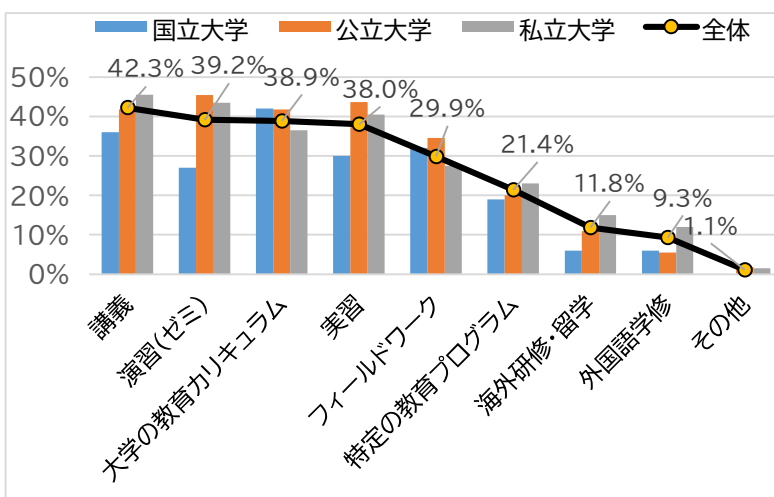
### 1. (校風を実感する時、契機、状況)

あなたが、それぞれ大学で「校風」を強く感じる(感じた)のはどのような時でしょうか。

該当する項目に印をつけて下さい(複数回答可)。該当する項目がなければ無回答で結構です。

また、回答の補足やお考えのことがあれば自由記述欄に記入して下さい(任意)。

### (教育・学習時)



### 【ポイントまとめ】

- ・「校風を実感する契機」として、教育・学習時にあって、私立大学では講義時、公立大学は演習時、国立大学では教育カリキュラムに校風を感じるという回答が多い。
- ・これら回答を見るならば、日々の教育・学修活動が校風形成にもつながっていることがわかる。
- ・大学における校風形成や校風認識に影響する要素として、平素の授業活動や学修指導の丁寧さ、あるいは教員との距離の近さとも関係しているとも考えられる。

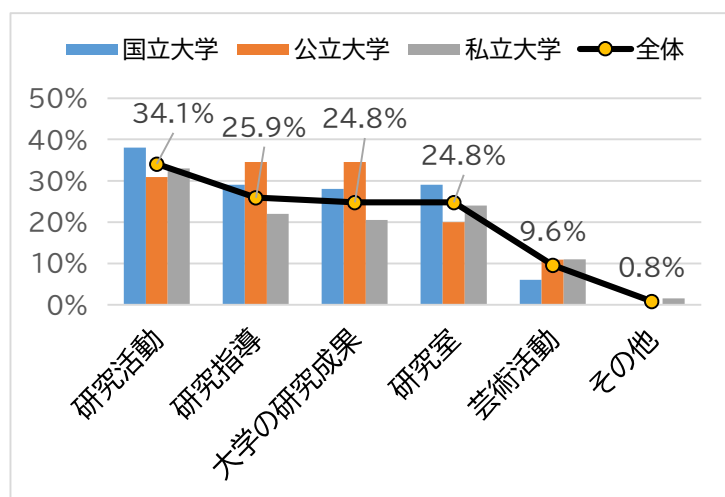
※自由記述では、校風を教育活動と意図的につなげようと工夫する以下の事例紹介もあった。

- ・第1回入学式における初代学長式辞で述べられたスローガンや、大学憲章の内容を、現在の取組みと結びつけたスピーチを学長が意識的におこなっている。ディプロマ・ポリシーを校風に結びつけ、それを訴求するセレモニーやパンフレットも作成している。(大学職員、国立中規模総合大学)

※自由記述では、医療系大学として独自の校風を形成することの難しさを語る記載もあった。

- ・勤務している大学では教職員と学生との距離は非常に近いのですが、カリキュラムの都合上、学修以外のイベントが少なく、一体感を感じる機会が少ないように思います。医療系の大学では「校風」を打ち出すのが非常に難しく（国家試験合格など他に優先すべき事項が多いので）、他大学との違いを見出すのに苦勞している印象です。開学したばかりで歴史が浅いので、今後学生が国家試験合格だけでなく、人としての成長を得ることが出来るような唯一の大学になっていけば、と思います。校風についてあまり考えたことはなかったのですが、本学について振り返る良い機会となりました。（大学教員、私立小規模医療系大学）

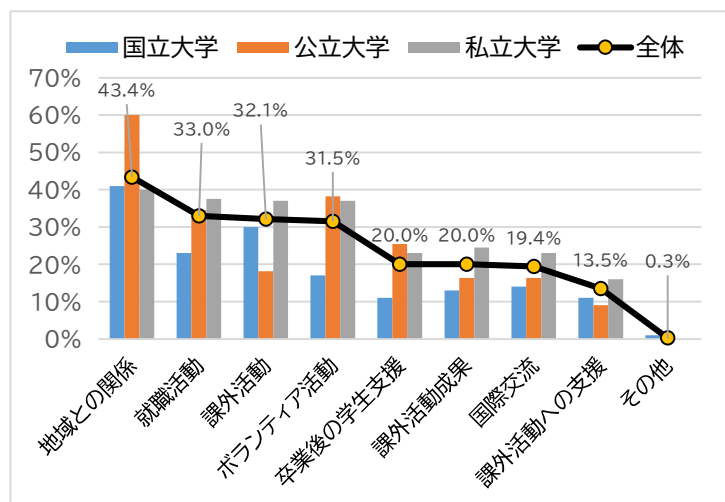
### (研究活動時)



#### 【ポイントまとめ】

- ・国立大学関係者は「研究活動時に校風を感じる」とする回答比率が他に比べて高い。
- ・公立大学関係者は「研究指導」や「それぞれの研究成果」に校風を感じる傾向がある。実学や医療看護や福祉領域に重点を置く大学が多いことの反映か。
- ・私立大学関係者の回答において「大学の校風を研究時に感じる」とする回答比率は、他に比べて低かった。

### (課外活動・就職活動時)



#### 【ポイントまとめ】

- ・私立大学関係者の回答では「課外活動時に校風を感じる」とする傾向が強い。

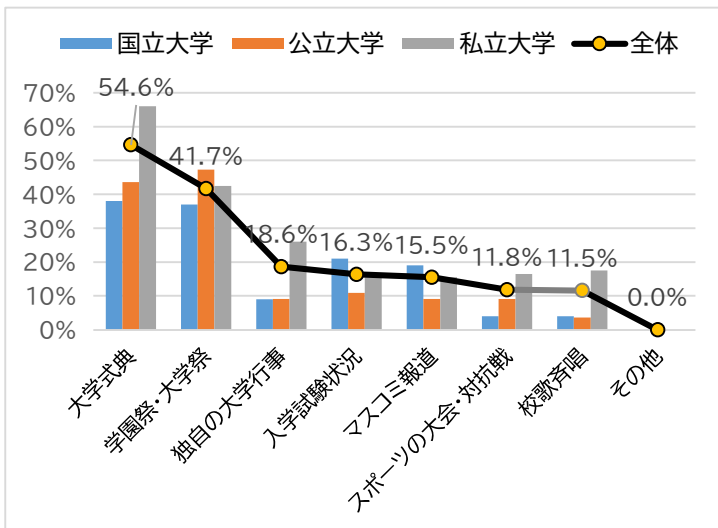
※私学における校風形成に課外活動は重要な役割を果たしている(自由記述も参照)。

- ・国立大学関係者の回答では、課外活動時での校風認識(実感)を回答する比率が全体回答比率よりも低い。
- ・公立大学関係者からは、課外活動や就職活動時における「地域との関係性に校風を感じる」とする回答比率が抜きん出て高い。

※ 課外活動や就職状況と校風の間を語る自由記述を紹介します。

- ・ゼミ、寮や課外活動等をとおして、母校への帰属意識を維持できるかが「校風」の継承につながるのではと感じます。（卒業生組織、私立中規模大学）
- ・田舎でおとなしく質素な学校ですが、その分まじめな学生が多く、地元の医療施設に就職し、管理者へと成長していくので地域からの信頼が厚いと思います。（大学職員、公立小規模医療系大学）

## (大学行事等)



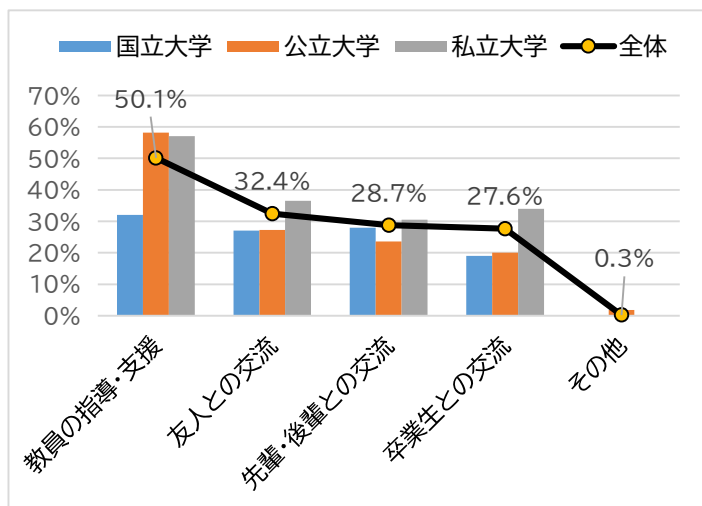
### 【ポイントまとめ】

- ・全体と比較して、国立大学関係者の回答では「大学行事等から校風を感じる」という比率が低い。一方で、入学試験の状況や大学がマスコミ等で報道されたおりに校風を感じるという回答が全体平均より高い。
- ・私立大学関係者からは「大学式典や大学行事に校風を感じる」とした回答比率が多い。
- ・校歌斉唱の機会に校風を実感するという回答比率は全体的に高くはないが、そのなかでも私立大学では、他に比べて高い回答比率を示している。(自由記述参照)

※大学行事等と校風の間を語る自由記述を紹介します。

- ・よきライバル校に恵まれ、両者が敬意を持ちつつ競い合いながら切磋琢磨したことが、それぞれの母校校風にもつながっていたようです。たとえばスポーツの対抗戦やそこの校歌斉唱、ゼミの交流、あるいは報道での対比的取り上げなどがありました。卒業後の両校交流もあります。(卒業生、私立大規模総合大学)。
- ・大学の校歌、応援歌を歌える学生が減少しているため、同窓会で校歌復活プロジェクト等を企画し実行せざるを得ない状況。(卒業生組織関係者、私立大規模総合大学)

## (教員・友人との交流時)



### 【ポイントまとめ】

- ・私立、公立大学ともに、学生への「教員の指導・支援」や学生への接し方(の好印象)から、そうした大学の雰囲気や環境提供のありかたを校風として実感するという回答比率が高い。
- ・特に私立大学では、友人、先輩後輩、卒業生など、それぞれの「人的交流」の中で校風を実感するという回答が目立つ。(人的ネットワーク形成が「校風」として定着しており、それが「私学の強み」となっている)
- ・国立大学関係者の回答では、人的交流機会から校風を実感するという比率が平均よりも低い。

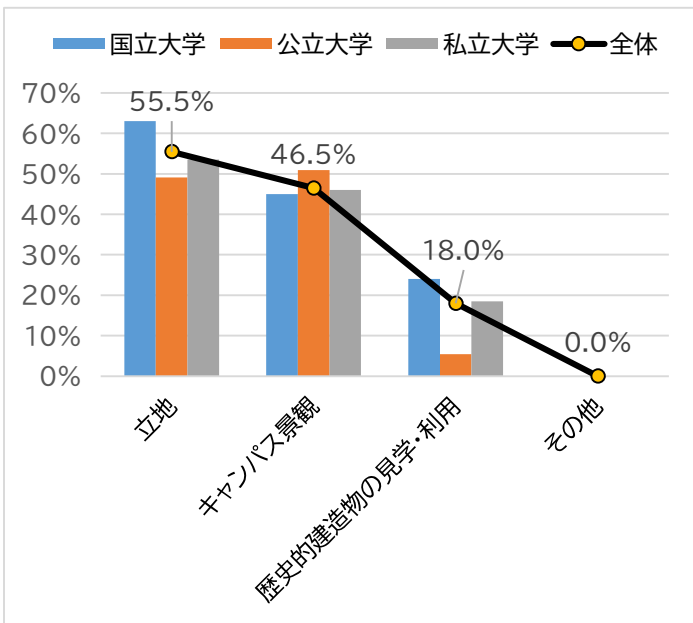
※大学の校風について、卒業生は学生時代に形成した人的交流の中に見いだす言及も多い。大学運営においてそのことがどれだけ配慮されているか。教員はそのことをどれだけ認識しているか。(他者との交流機会の提供)

※これら回答結果を踏まえるならば、学生同士や、大学構成員相互の「人的交流機会の提供」工夫は校風形成につながるものであり、これには大学職員や同窓会の知見・発想(アイデア)に期待することも有効であろう。

※ 「教員・友人との交流」と校風の間を語る自由記述を紹介します。

- ・40年前の国立大学はいい意味でも悪い意味でもおおらかだった。成果主義の現在では生きていけないような教員がたくさんいたが、その先生方との交流が自分の大いなる心の財産となっている。(卒業生組織、国立中規模大学)
- ・当時、大学は学生に何も干渉しませんでした。もちろん親身な指導や支援ありませんでした。授業で記憶に残っているものは何もありません。しかし、進級判定はなぜか厳しかった。教育研究活動での野放図な環境のもと、学生達は自分たちでサークルを立ち上げ、企画し、学生生活を満喫し、生涯の友を得ました。(卒業生組織、私立大規模大学)
- ・アットホームでこぢんまりとした環境で落ち着けました。キャンパスも1つで済み、広さも適度だったので、歩いていれば友人に会えて楽しかったです。公立大学でしたが、全国から有名進学校出身者が多くて刺激を受けました。就職氷河期でしたが先輩たちが一流企業に内定もらっているのを見て、意外と評価されていると実感しました。過去の先輩たちが築き上げてきた信頼だと思ひます。卒業してからも先輩・後輩とたまに会って飲むことが楽しいです。(卒業生、公立中規模大学)

(立地・景観)



【ポイントまとめ】

- ・大学の立地や景観は、国公立、いずれの回答比率も高く、校風形成のための重要な要素といえる。
- ・立地や大学景観は、学生にとって大学への帰属意識にも関わる重要な要素といえる。大学への帰属意識は学生の学修成果にも影響することを明らかにした研究もあるようだ。
- ・ならば「教学マネジメント」において、「キャンパス景観」を学修成果のための「重要要素」とどれだけ認識しているだろうか？

※ 今回調査結果をふまえるならば、卒業生にとって、大学の立地や景観がそのまま校風認識につながる場合があるようだ。

※ 大学がそれぞれのあり方や今後を考える上で、「大学の校風や特色と大学景観との関係」について、卒業生から意見聴取をすることは重要かもしれない。(卒業生調査の項目に入っているか?)

※ 大学の立地・景観と校風の間を語る自由記述を紹介します。

歴史と伝統がある大学に所属していて、心穏やかに仕事に向かえるのはキャンパスの美しさにもあると思っています。古い樹木、草花が四季折々にその姿を変え、自然豊かなキャンパスで学生たちが集う姿をみていると校風を感じます。キャンパスの自然図鑑を作りたいと思うくらいです。このアイデアかなり良いと思っています。(大学職員、私立小規模女子大学)



※「校風を実感する時、契機、状況」については、補足記載や自由記述を多くいただいた。回答集計に反映されない貴重な示唆もあった。以下、補足・自由記述の回答記載を紹介します。

- ・近年は女子学生が増え3分の2を占める。国際色は変わらないが、就職先も多様化し、校風も変化しつつある。（卒業生組織関係者・同窓会事務局長、国立大学中規模総合大学）
- ・「校風」を実感させる地域との関係として、次のとり組みがある。：地域住民を対象に健康イベント「なごみの会」、地域住民を対象にスポーツトレーニング（健康体操等）イベント「ここトレ」。（大学職員、私立小規模大学、介護・福祉領域系）
- ・同窓会で各学科の活動を助成し、ホームカミングデーや卒業生の学びの機会（講演会・シンポジウム）を設けている。（大学教員、私立大規模大学）
- ・本学には校友会がありません。よって同窓会がそれを兼ねての活動となっています。現役の学生に対して、課外活動、部活、ボランティア、自治会に対して、主に資金援助ですが、積極的に行っています。この活動が先輩から後輩へとつながっていく意識付けになると信じています。（卒業生組織・同窓会課長、私立中規模大学医学系）
- ・授業の始まりと終わりに起立して挨拶することと、日常に廊下ですれ違う際に挨拶する際に伝統を感じます。（大学職員、中規模私立女子大学）

### 設問Ⅲ 校風を活かした大学運営へのご教示をいただく設問

#### 2. 【ご回答任意】

あなたが関与する大学で、それぞれの校風を活かした「事業(取り組み、行事)」があればご紹介下さい。

「取り組み」がわかるような名称だけでも結構です。(自由記述)

(例: 国際色豊かな「学生寮」、校友が支援する「就職支援」、厳しい進級制度、地域と協働する学園祭、など)

#### 【ポイントまとめ】

- ・卒業生の「母校帰属意識の強さ」や「一体感」という校風を背景にして、卒業生と連携した事業が多く紹介される。
- ・地域と関わる校風(または大学方針)を持つ大学が多いことによるのか、地域と関連する校風事業も目立つ。
- ・「国際・グローバル」などを校風認識する回答は低かったものの、それらを具体的事業に反映している事例は多い。
- ・医療系・福祉介護系の大学では、それぞれの校風や教育特色を事業に反映した事例が紹介された。
- ・建学の精神や、宗教的教育方針を背景とした事業や行事反映事例も多かった。

#### 校風を活かした大学運営・事業に関する自由記述

##### 【教育施策、教育事業】

- ・学部の特徴を生かした他学科への科目提供。(私立小規模大学)
- ・本学では「社会規範教育」を掲げ、その中で自校教育にもとづき挨拶、掃除道、ボランティア活動等を取り上げ、社会に貢献する女性医人の育成に努めています。(私立中規模医科大学)
- ・少人数(20名)クラスでのネイティブスピーカーによる語学演習と講義。(私立中規模専門大学)
- ・海外留学を目的としたネイティブ教員が管理人として定住し、様々なプログラムを展開する学生寮1、2年次の進級制度。(私立中規模専門大学)
- ・奈良の歴史を生かした「特別書道専攻」、「伝統文化専攻」があり、ユネスコスクールとしてESDに取り組んでいる。(国立小規模教員養成系大学)
- ・学生の制作物を地域の公共施設などに寄贈。技能五輪やNHKロボコン、全日本学生フォーミュラなどの大会への出場。40日間の長期インターンシップ。(私立小規模専門大学)
- ・学生自身でプロジェクトを立案する「ユニークプロジェクト」、「チャレンジプロジェクト」。(私立大規模総合大学)
- ・教育講師制度(教員と学生の架け橋的教育システム)、学生寮の充実、クォータ制の導入、学生による教員評価など。(公立中規模総合大学)
- ・クリスマス点灯式、キャンドルサービス、アドバイザー制度、ホームカミングデー、人材バンク制度。(私立小規模女子大学)
- ・学校主催のファッションデザインコンテスト。(私立小規模専門大学)

##### 【学生支援】

- ・コロナ禍にあっては地元自治体と一体となって学生への支援を行った。(国立中規模総合大学)
- ・優秀な卒業論文の表彰、在学生への就学支援。(国立中規模総合大学)
- ・学生寮、奨学金。(私立大規模総合大学)
- ・障害学生への情報保障。(国立小規模専門大学医学)

### 【課外活動支援】

- ・木曜日午後に授業を配置せずに、学生が様々な課外活動の時間に充てられるようにしていること。(私立中規模医療系大学)
- ・一般的な学園祭とは異なり、学生だけではなく全教職員も主体的に参加し、地域住民との交流を図る学園祭が毎年開催されています。(私立小規模医療系大学)

### 【施設設備】

- ・学寮の設置。(私立小規模大学)
- ・オリンピックの歴史を軸としたスポーツミュージアムの設置。教育懇談会という保証人向けのキャンパス見学会における競技施設のキャンパスツアーイベントなど。(私立大規模総合大学)
- ・学内にある歴史的建造物を開放して歴史等を学べる機会がある。(私立大規模総合大学)

### 【卒業生事業、卒業生との連携】

- ・卒業生組織による、部活動の支援。卒業生組織による奨学金の設置。(私立大規模総合大学)
- ・卒業生の経験や仕事の内容を講義する講座を毎年12回同窓会が企画し、講師の費用を負担している。(国立中規模大学専門大学：外国語系)
- ・家族での参加が多いホームカミングデー。(私立中規模専門大学)
- ・コロナ禍で困窮学生が増えたが、同窓会が支援した。日本国内の数多くいる海外つながりで日本語が出来ない子女を支援する活動を同窓会として計画中。(国立中規模外国語系大学)
- ・校風というものではないのかもしれませんが、同窓会のネットワークを活用し、修了生にとってメリットのある活動ができないか模索中です。卒業生へのセミナー、卒業生同士のネットワークの場の提供、情報提供、などでしょうか・・・。(国立小規模大学院大学)
- ・校友会主催による業界別座談会、「境川クリーンアップ作戦」など地域活動へのボランティア活動。(私立大規模総合大学)
- ・ボランティア活動(ゼミやサークル単位での継続的つながり)。(私立中規模介護福祉系大学)
- ・OB、OGによる就活セミナー等。(私立中規模介護福祉系大学)
- ・産官学のイベント、ホームカミングデーでの卒業生による講演会。(私立中規模女子大学)
- ・学園祭を在学生と卒業生が一緒になって行う。(私立小規模専門大学)

### 【奨学金事業】

- ・創立130周年記念奨学金特待生制度。(私立中規模総合大学)
- ・地元企業を中心とした大学支援組織が設立されており、交流会の他、コンベ形式市で学生に制作のための給付型奨学金を与えている。審査員は各社長が持ち回りで直接行い、数時間かける。地元からの本学生を支援しようとする熱意が伝わってくる審査会である。(公立小規模芸術系大学)
- ・同窓会が主催する収益事業で、学生達に奨学金を給付。(私立小規模女子大学)

### 【宗教行事、宗教的事業】

- ・愛校バザー、毎日の礼拝、教育寮、クリスマス礼拝。(私立小規模女子大学)
- ・イルミネーション、チャペルアワー、メサイア演奏会。(私立小規模大学)
- ・第1期生から続く卒業関連行事。ミサなどのキリスト教関連行事。上級生が下級生をサポートするピアサポート。(私立大規模総合大学)
- ・キリスト教教育が基盤にあるので、毎日の礼拝やキリスト教関連行事(クリスマス礼拝など)、キリスト教週間にロングチャペルの開催。卒業式、入学式に御祈りや讃美歌を謳うことなど。教職員会議でもお祈りから始まり、黙とうで終わるなど心合わせる習慣があることでしょうか。(私立小規模女子大学)
- ・「校風」が影響してできた行事はないが、毎週チャペルがあり、卒業式や入学式で讃美歌を歌う、クリスマス礼拝がある。(私立中規模総合大学)

## 【留学支援、国際事業】

- ・海外研修航海、複数の校舎があることによるキャンパス間留学、多様な留学先。(私立大規模総合大学)
- ・学生寮や国際交流会館において日本人学生と留学生の混住化を進めている。(国立中規模総合大学)
- ・海外留学を目的としたネイティブ教員が管理人として定住し、様々なプログラムを展開する学生寮1、2年次の進級制度。(私立中規模専門大学)
- ・少人数(20名)クラスでのネイティブスピーカーによる語学演習と講義。(私立中規模専門大学)
- ・海外29支部を含む、全119支部の代表で行う世界支部長会のリアル開催。(私立大規模総合大学)
- ・国際センターで定期的に行われる留学生との英語での交流会。(国立中規模総合大学)
- ・国際性に富んだ「学生寮」、アメリカ・カナダの協定校と協働開発した「英語教育プログラム」。(私立大規模大学外国語系)
- ・各国の文化を紹介するカルチャーデー。(国立小規模大学院大学)
- ・国際色豊かな「学生寮」、卒業生が「留学を支援」。(私立中規模総合大学)
- ・多国籍、多文化交流。(私立小規模大学)

## 【就職支援】

- ・毎年デザイナー自立支援を行っている。(私立小規模専門大学)
- ・国家資格取得に向けた受験指導。(国立小規模大学)
- ・校友が支援する「就職支援」。(私立中規模総合大学)
- ・充実した就職支援体制。(私立小規模医療系大学)
- ・大学内で将来就職する際に必要な資格取得支援講座を開講。(私立小規模女子大学)

## 【実習・実験】

- ・附属小・中・高・支援学校における教育実習。(国立小規模教員養成系大学)
- ・郊外にある工房で、その地域を交えた交流のなかでの制作活動。(私立中規模芸術系大学)
- ・大学のある地域の商店街をフィールドとして、地域課題解決実習の授業。(私立中規模医療系大学)
- ・京都市立学校への学校訪問、ボランティア。(国立小規模教員養成系大学)

## 【社会や地域との連携・貢献、ボランティア活動】

- ・地域に根差した大学として、地域への就職支援などを活発に展開。(国立中規模総合大学)
- ・さらなる地域課題解決への貢献。(私立大規模総合大学)
- ・研究内容を活かした地域との交流、連携。(私立小規模女子大学)
- ・地域活性化の学生プロジェクト等が多数ある。(国立中規模総合大学)
- ・地域の子どもへの理科教育支援「学びの実験室」。(私立小規模専門大学)
- ・地域住人との学園祭や記念植樹などの行事、学内施設を利用した健康維持増進活動プロジェクト(いずれもCOVID-19による規模縮小や中止等の影響あり)(私立小規模医療系専門大学)
- ・地域と連携した多数の教育プログラム。(私立大規模総合大学)
- ・学生と地元企業が協力し、清掃活動を行っている。(私立小規模医療系大学)
- ・地域貢献事業。(私立中規模総合大学)
- ・地域の市町との連携。(国立大規模総合大学)
- ・地域に向けた行事や広報。(国立中規模総合大学)
- ・地域貢献、現場の改善改革のため創立時から継続している県内看護の現場と大学との共同研究事業。常に県民への貢献を使命としていることが校風につながっているようにおもう。(公立小規模医療系大学)
- ・地域の方々と協働したボランティア活動。(私立中規模女子大学)
- ・地域の特徴を取り入れた学び、独自のキャリア教育プログラム、副専攻「AI・データサイエンス」。(私立小規模大学)
- ・地域について学ぶ授業。(公立小規模大学)

## 【医療事業・医療教育】

- ・医療系の学科が多くそろっていることを生かした「チーム医療教育」。(私立中規模医療系大学)
- ・卒業研究が実践型であり、医療現場で実際の対象者を対象にした卒業研究をすること。実際の現場の医療者と同じように倫理委員会を通して、同意書を取って関わりから研究をすることができること。(公立小規模医療系大学)
- ・卒業後の研究支援、地域にある施設との共同研究事業、学会の立ち上げ。(公立小規模医療系大学)
- ・コロナ禍以前は、大学祭の健康測定会に地域の方が多数参加されていました。(私立小規模医療系女子大学)

## 【建学の精神】

- ・建学の精神を理解するための講義科目が設けられている (私立中規模総合大学)
- ・母校は、キリスト教系のミッションスクールで、高校から内部進学したためあまり感じていなかったですが、キリスト教の教えが学生生活や、校風に現れていたと、自分が大学職員になって感じます。具体的には、大学構内の掃除がいきわたっていたり、他者への尊重や社会貢献への熱意がありました。現在勤務している大学は、重視していないとは言いませんが、最重要事項として重んじている感覚はありません。それよりも、努力を継続させること、学生の主体性や自主性をはぐくむことに重きを置いている気がします。それは、本学の建学の精神を学内外へ意識的に発信しているからかもしれません。(私立中規模総合大学)
- ・建学の理念に則り、全学生に対し外国語教育を重視。地域(草加市・UR 都市機構)と連携したまちづくりを推進。学生団体が創設者の名前を冠した弁論大会・競技会を実施等。(私立中規模総合大学)
- ・建学の精神に基づき、実学教育を支援する取り組みが充実しています。例えば、大学初ベンチャー企業を生み出す拠点として、学生が24時間利用可能なインキュベーション施設をオープンするなど、起業支援に注力しています。また、産学連携の取り組みが非常にさかんです。(私立大規模総合大学)
- ・「建学の理念」の授業。(私立小規模医療系大学)

## 【立地を活かした事業】

- ・都心のキャンパスを生かした地域連携、産学連携。(私立中規模総合大学)
- ・歴史的建造物、京都という立地。(私立大規模総合大学)
- ・紀伊半島価値共創基幹を発足し、全学横断で自治体や地域の皆様との連携・連帯を元に「共創」して、地域課題に取り組んでいる。(国立中規模総合大学)

## 【大学独自の様々な事業、特色ある取り組み】

- ・年1回教育後援会(保証人の会)と大学で共催する教育・就職懇談会/支部会での成績・就職に関する個別面談、地域に根差したボランティア活動、国際色豊かな交流行事、大学独自の手厚い支援行事。(私立中規模総合大学)
- ・学生募集活動への校風活用、地域へのアピール。(国立小規模大学)
- ・地域と協働する学園祭・部活動に所属する学生が参加する寒稽古など。(私立大規模総合大学)
- ・地域の発展が戦前前身校創設時に託されたミッションで、これを継承したボランティア活動が行われています。また、地域の現状を確認する「初年次教育」が行われています。教養教育を重視する新制大学発足時の理念を継承し、いまでも教養教育を大切にしています。(国立中規模総合大学)
- ・大学に設置されている史料室での展示で、大学の歴史や卒業生の活躍を知ることができる。女性医療人キャリア形成センターで弥生記念講演会の開催や女性に特化した教育・研究・診療支援を行っている。その他、学祖墓前祭、附属病院との就職支援、国際交流。(私立小規模医療系女子大学)



## 設問Ⅲ 校風を活かした大学運営へのご教示をいただく設問

### 3. 【ご回答任意】

大学校風を活かした「事業(教育・研究活動、大学事業、学生支援などすべて)」への期待や提案があれば、ご教示下さい(自学以外でも可。経験談でもアイデアの披露でも歓迎します)。(自由記述)

#### 【自由記述紹介】

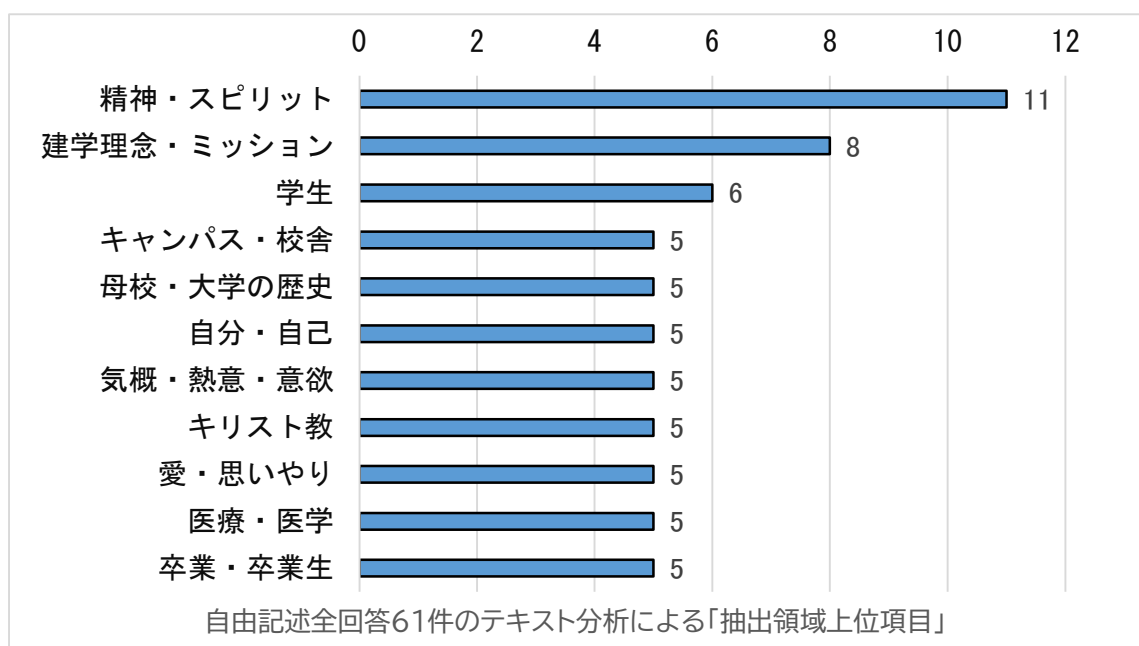
- ・卒業生組織による、部活動の支援。卒業生組織による奨学金の設置。(卒業生、私立大規模総合大学)
- ・オリンピックという大舞台に立った方々の晴れ舞台の裏の地道な努力や支えてくれた人たちへの感謝の気持ちを持つ真の謙虚さを感じる言動に触れるにつけ、失敗(挫折)しても立ち上がる心の強さを多くの学生に伝えたいと感じます。また、情報があふれている現在、「知っている(知識や情報としてだけ)」ことで、理解できているつもりになっていたり、コスパ・タイパなどの損得でしか物事を見られない視野の狭さを感じることがあります。自分自身が打ち込めるものを見つけたり、自分なりの目標に向かって進もうとする人を育てていけたらよいと感じます。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・学生や卒業生の自発的活動。(大学職員、私立小規模医療系大学)
- ・学生募集活動への活用、地域へのアピール。(大学教員、国立小規模大学)
- ・学生支援のための寄付。(大学職員、私立中規模総合大学)
- ・同窓会：毎年デザイナー自立支援を行っている。(卒業生組織関係者、私立小規模専門大学)
- ・保護者組織が活発でサークル応援や広報誌作成までしている(自学以外での経験)。そこでは保護者の同窓会のようなものである。(大学職員、公立小規模医療系大学)
- ・私立大学ですので、母校の校風を意識した大学運営を願いたいものです。校風が学生や卒業生に大切に継承されれば、母校の価値は高まるでしょう。そうした校風を嫌う学生や卒業生もいるようですが、それとても「校風」あればこそその自己主張でしょう。(卒業生組織関係者、私立大規模総合大学)
- ・学生は大学の理念や歴史を認識せず、共通テストの成績だけを踏まえた高校の進路指導のもとに進学してきます。母校の歴史を認識する自学教育が普及定着するといいですね。大学を卒業して、その卒業生が母校の校風を知らずして身につけていると、その大学はきっと「いい大学」と言われるでしょう。(大学教員、国立中規模総合大学)

### 設問Ⅲ 校風を活かした大学運営へのご教示をいただく設問

#### 4. 【ご回答任意】

在学生やこれからの入学生に、継承してほしい校風があればお書き下さい。(自由記述)

本研究・調査では、校風について「歴史的伝統、地理的環境などにも影響を受け、大学の様々な構成員により世代にわたって可塑的に醸成・継承され、ときに刷新される」と考えている。そこで今回調査では、各回答者に「大学や学生に継承してほしい校風」について、任意で自由記述回答を求め 61 件の応答があった。これら自由記述での回答傾向把握のため、記載文をテキスト分析して校風内容の領域分類を試みた。その上位領域を下記に示す。



#### 【ポイントまとめ】

- ・継承してほしい校風領域にあるものとして「大学の精神・スピリット」、「建学の精神」が上位。これら記述回答は私立大学関係者のみならず、国・公立大学関係者からの記載にも見られた。
- ・キャンパスや校舎といった大学の風景、大学の歴史や文化の継承を願う記載も多い。
- ・それぞれの記載にあつては、学生達が充実した大学生活を過ごし、学生達の夢ある挑戦意欲を促し、また、大学全体でこれを支える、そんな「自学校風の継承」の願いが込められているようだ。
- ・校風継承を学生達に託す旨の記述にあつて、そこでは伝統的校風の継承のみならず、さらなる発展に向けた校風刷新・創造が期待されている。
- ・「気概・熱意・意欲」、「愛・思いやり」といった価値観や行動規範の校風継承を期待する自由記述もあった。

※これらを含め、「継承してほしい校風」を通じて、それぞれ回答者の立場から望ましい大学の姿が伝えられたように感じられる。以下、回答記述を紹介します。

#### 継承してほしい校風:自由記述紹介

##### 【精神・スピリット、建学の精神】

- ・大学の教旨。在野精神。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・建学の精神を胸に社会で活躍してほしい。(大学教員、私立中規模総合大学)
- ・不撓不屈の精神。(卒業生組織関係者、私立中規模医療系大学)
- ・ボランティア精神。(大学職員・同大学、(同法人中高)の卒業、私立中規模女子大学)
- ・世界市民としての自覚と活動。(保護者組織、私立中規模総合大学)

- ・キリスト教人間観に基づく他者を思いやる校風（大学職員・卒業生、私立中規模女子大学）
- ・キリスト教の愛の精神。（大学教員、私立小規模医療系大学）
- ・卒業生が脈々と語り継いできた「ことば」を大切に、それぞれの歩む人生の標として、共有し継承して欲しいと願います。（大学教員、私立小規模・女子大学）
- ・大学の理念「至誠と愛」、建学の精神「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する」のさらなる継承。（大学教員、私立小規模医学系女子大学）
- ・本学は医療に携わるための国家資格取得を目的としており、建学の精神である「社会に役立つ奉仕の精神」を養う校風を持ち続けて欲しいと願います。（大学職員、私立小規模医療系大学）

#### 【矜持、誇り、プライド、気概】

- ・大学の矜持。（卒業生、私立大規模総合大学）
- ・地方国立大学で学び、地域のリーダーとなり、地域を活性化するというプライドを持ってほしい。（大学職員、国立中規模総合大学）
- ・逆に継承して欲しくないことなのですが、○大生は自分（自学）を卑下することが多いように感じます。確かに偏差値やレベルの高い大学ではないかもしれないけど、いい大学だと思っているので、そんなに下にして話さなくてもいいのに、と思います。謙虚とはまた違うように感じます。（学生、国立中規模総合大学）
- ・自ら未来を切り開いていく気概を持って海外留学にチャレンジする校風、ダイバーシティを重んじ、他社を尊重したコミュニケーションを心掛ける校風。（大学職員、私立中規模専門大学）

#### 【愛校心・母校らしさ】

- ・愛神愛隣。（大学職員、私立小規模女子大学）
- ・どの学校でも母校を大事にしてほしいですね。（大学教員、私立中規模専門大学）
- ・学生の個性を尊重して、後押しする校風（大学職員、私立中規模総合大学）
- ・落ち着いた校風（ちゃらちゃらしていない）。（大学職員、私立中規模女子大学）
- ・自由闊達。（大学教員、国立小規模大学院大学）
- ・キリスト教教育。そして地域に愛される大学。（大学職員、私立中規模女子大学）
- ・母校歴史や建学精神の認識。ライバル校への敬意。卒業年度を越えた卒業生同士の交流。基礎学力のある「おバカ」を「よし」とする雰囲気。（卒業生組織関係者、私立大規模総合大学）
- ・女子大なので、共学では得られない女子だけのまとまりを作っているの、それを継承して欲しい。（卒業生組織関係者・同窓会会長、私立中規模女子大学）
- ・奈良春日山の麓にあるキャンパスでは、鹿が自由に草を食んでいる。のんびりとした校風を大事にして欲しい。（卒業生組織関係者、国立小規模専門大学）

#### 【学生への期待、学生の成長を促す気風】

- ・地に足をつけた学生生活。（卒業生組織関係者、国立大規模総合大学）
- ・勤勉さと誠実さ。（卒業生組織関係者、国立中規模総合大学：）
- ・やりたい事にとことん夢中になる気質。（大学職員、私立小規模専門大学）
- ・国際感覚。（卒業生組織関係者、国立中規模専門大学）
- ・もっと自分の興味のおもむくまま学生生活を送ってほしい。（大学職員、私立大規模総合大学）
- ・教職員との距離が近く、あたたかい学校という点。（大学職員・卒業生、私立小規模女子大学）
- ・自己責任に基づく自由な活動。（卒業生組織関係者、私立小規模医療系大学）
- ・自分の「好き」を見つけとことん追究し楽しむ姿勢と校風。（大学職員、私立中規模女子大学）

### 【キャンパス・校舎、歴史の継承】

- ・学内に残る歴史的建造物そのものの継承、建学の精神。(保護者組織、私立大規模総合大学)
- ・校風の軸にあるキリスト教のこと、創立者の宣教師のことなど、大学の歴史について知ってほしい。(大学教員、私立中規模女子大学)
- ・その場しのぎの、執行部がとってつけたような今風のミッションではなく、歴史的に連綿と受け継いだ使命とは何かを見極め、継承していくことを望みます。(大学教員、国立中規模総合大学)

### 【人としての生き方、ありかた】

- ・人間たれの精神を継承し社会に貢献して欲しい。(卒業生組織関係者、私立小規模医療系大学)
- ・人間愛の精神。(大学職員、私立中規模総合大学)
- ・マナーを守れる人材として成長してほしい。(大学職員、私立中規模総合大学)
- ・社会的弱者に寄り添う姿勢、行動力。(大学教員、私立小規模女子大学)
- ・人を想う。人と輝く。(大学職員、私立小規模医療系大学)
- ・他を慈しむ心。(大学教員、私立小規模大学)
- ・建学理念「大学は学問を通じての人間形成の場である」を常に念頭に置き実践してほしいと願っています。(保護者組織、私立中規模総合大学)
- ・思いやりの心(あいさつ、ゴミのないきれいなキャンパスにも通じていると思う、来訪者を学生が部署まで案内してくれる)。(大学職員、本学卒業生、私立中規模介護・福祉領域系大学)
- ・在学時から社会人になっても、人間たれの精神を持ち続けたり思い出したりできれば良いと思う。(卒業生組織、私立小規模医療系大学)

### 【教育・研究、課外活動、大学行事】

- ・気象や災害などの困難を克服しうる実学を目指した研究と勉学。(卒業生組織関係者、国立中規模総合大学)
- ・平和で学習できる環境を育む心の育成。(大学職員、私立小規模専門大学)
- ・実学と高度な専門性を重視した校風。(大学教員、国立小規模大学)
- ・学理と実際の調和を重視する校風。(卒業生組織関係者、国立大規模総合大学)
- ・教育に対する熱意と努力を大切にする校風。(卒業生組織関係者、国立小規模教員養成系大学)
- ・建物を一から作り上げて開催する大学祭(卒業生組織関係者、私立中規模芸術系大学)
- ・服飾造形に関する感性と表現技術の継承。(卒業生組織関係者、私立小規模専門大学)
- ・ボランティア系サークルが多い特長は継承してほしい。さすが医療系、「人のためになる」精神の学生が多いと思った。(大学職員、公立小規模医療系大学)

### 【地域や街との共生】

- ・学ぶ街は、暮らす街でもある。(大学教員・役員、国立中規模総合大学)
- ・地域社会への貢献。(大学職員/卒業生、私立大規模総合大学)
- ・大学の所在地の西粟鴨から粟鴨までの商店街を含むエリアをオールキャンパスとして、学生が活動すること。(大学職員・同窓会組織兼任、私立中規模総合大学)

### 【校風継承にあたっての課題】

- ・国立大学にしては、校風が明確です。そのことに気がつく学生は少なく、校風を示唆する教員もいません。卒業生(組織)が校風継承に重要な役割を担っています。教員に本学出身者が少なく、母校意識もなく、あわよくば「転任」してしまう現状で、教員が校風継承の役割を担うことは困難かもしれません。教員も執行部も、校風などには無頓着です。(大学教員、国立中規模大学)」

- ・私立大学の建学の精神が国の政策により、また少子化により存在感がない状態に陥っている現状への危機感がある。すべてが同じ学生を育成しようとしている。(大学職員、私立小規模大学)
- ・本学では建学者である初代学長の意思に基づき「自由自治」を強く謳っている。入学式で配られる建学の理念を示す小冊子にもそのことは示されており、学内には自由自治の石碑を置いている。学園祭でもその意識はあったものの、近年の学生の意識の変化などもあり、弱まっている。(大学職員、私立中規模大学)
- ・本学に関して言えば「自由な校風」であるゆえに群れることを嫌い、体験した学生生活への愛着や思慕は生まれても、そこから大学への帰属意識につながるものが困難に思う。そのような学生の意識は好ましく思いながらも卒業後も大学そのものへの愛着を持ってもらうためにはどのようにすればよいのか、悩ましく思っている。(大学職員、私立中規模大学)」

### 【校風を創る】

- ・「大学校風」は、学生によって創られることを実感しています。大学の理念、建学の精神など当然教職員が共有したうえで、学生をどう育てていくのか議論し続けていました。結局、在学生が何を成してきたか、卒業生がどう活躍しているのかが答えになっていたように思います。現在、歴史と伝統を掲げる大学に所属していますが、「うちの学生は、優しい、穏やかな雰囲気がある（ポヤポヤしているなども言います）」であるとか「うちの卒業生らしい」とか教員同士でよく話をします。歴史や伝統など重たいもののように感じますが、そこに、学んできた人たちの醸し出す雰囲気のようなものが目に見えない形で「校風」となっているようにも感じます。もちろん、それが、理念とか建学の精神だとかを体現化したかたちなのかもしれません。(大学職員、私立中規模女子大学)
- ・本学は 2007 年に開学した比較的新しい大学であり、開学後も順次医療系の学科を設置し続け規模を拡大してきました。学科によっては卒業生が少なく、教職員も近年本学へ赴任・就職された方が多く、全学的に統一された校風・共通認識の定着は、まだまだ発展途上ではないかと思っています。今後歴史を重ね、卒業生が本学教員として就職するケースや教職員が大学へ定着することで大学校風が徐々に形づくられるのではないかと思っています。(大学職員、私立中規模大学)

#### 設問Ⅳ 「自由」という校風をめぐる設問

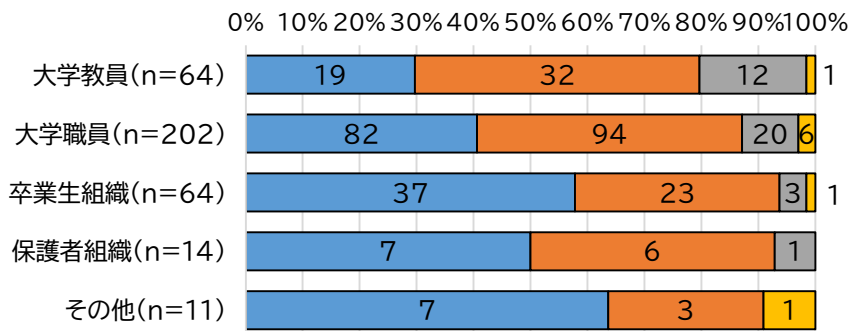
全国大学ホームページにおける校風言及にあつて、(これを収集し、テキスト分析した結果)最も抽出数が多かったのは「自由」という項目でした。そこで「自由」という校風要素について、あなたのお考えやご経験をおうかがいします。

- あなたの関わる大学において、「自由」という校風を実感したことがあるでしょうか。該当するものに印をつけて下さい。

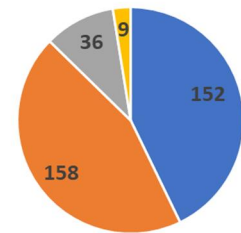
ある       どちらとも言えない       ない

#### 校風「自由」の実感(n=355)【回答者属性別】

■ある ■どちらとも言えない ■ない ■未回答



校風「自由」の実感 (全355回答)



■ある ■どちらとも言えない ■ない ■未回答

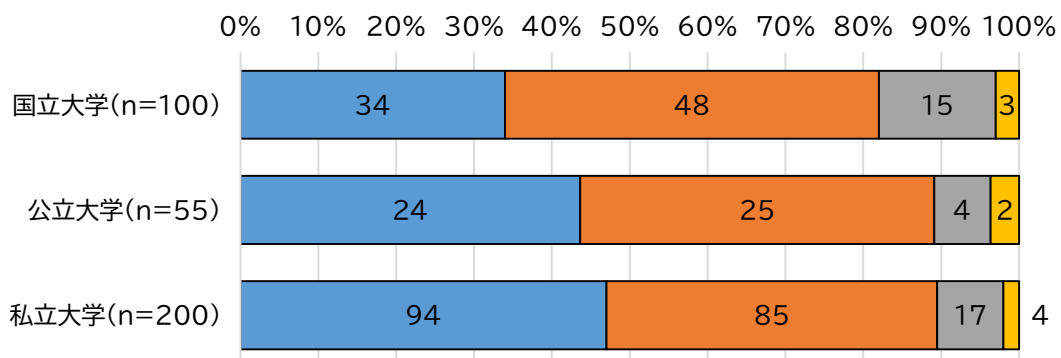
※ グラフ中の数値は回答実数。

#### 【ポイントまとめ】(全回答・回答者属性別)

- 「ある」の全回答中比率は43%。「どちらとも言えない」は45%でほぼ同数。「ない」は10%にとどまる。
- 回答者属性別でみると、「ある」の回答比率は卒業生組織(卒業生)が最も高い(58%)。
- 卒業生組織回答に比較すると、教員や職員は「自由」を実感する回答比率が低い(30%)。
- 「ない」の回答については、教員が最も回答比率が高く2割弱(18.8%)となる。

#### 校風「自由」の実感(n=355)【設置形態】

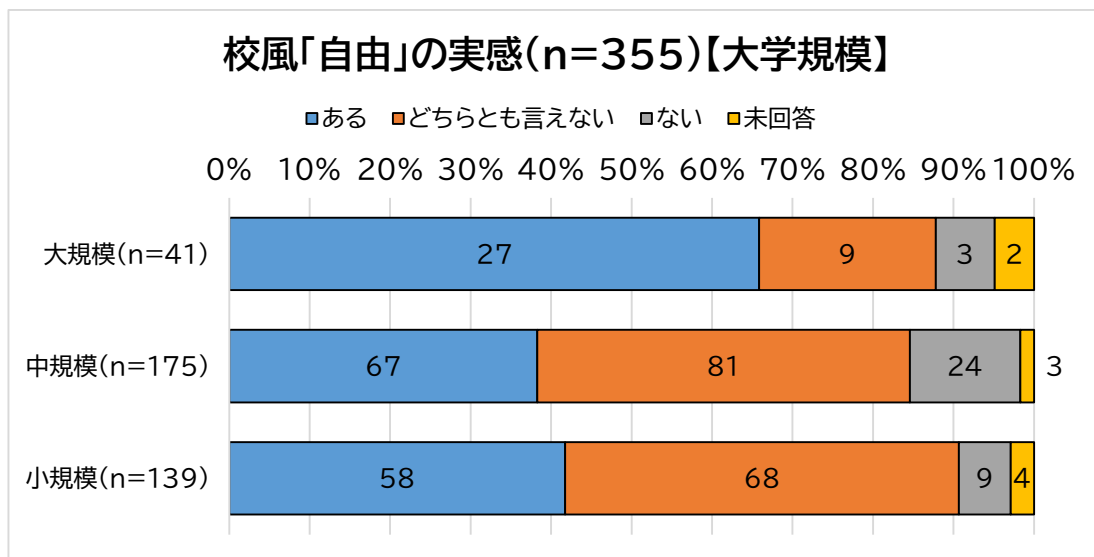
■ある ■どちらとも言えない ■ない ■未回答



#### 【ポイントまとめ】(全回答)

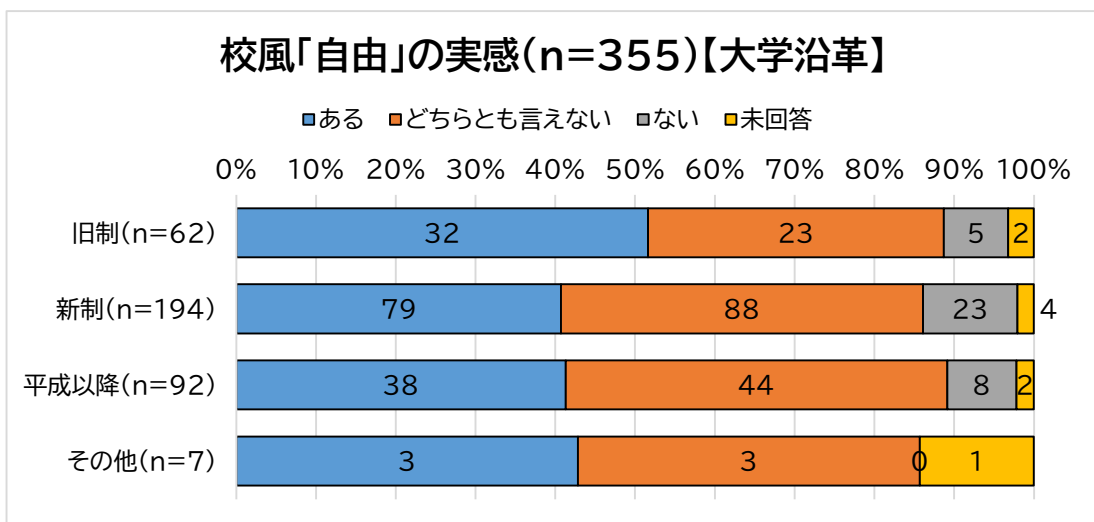
- 設置別にみると、「自由」への「肯定的回答(ある)」の比率は私立大学が47%と最も高い。
- これに対し、国立大学の「肯定的回答」比率(ある)は34%で、国・公・私立別では最も低い。





#### 【ポイントまとめ】(規模別回答)

- 大学規模別にみると、校風「自由」実感の「ある」とした回答は大規模大学の比率が高い(66%)。
- 中規模、小規模大学では、「自由」という校風について「どちらともいえない」の回答比率が約半数となる。
- 「ない」の回答は中規模大学が14%ではあるが、大学規模三分類の中ではもっとも高い比率となる。
- 国立大学関係者の全回答は、中規模大学からの回答数が多かった(国立大学100回答中72回答)。



#### 【ポイントまとめ】(沿革別回答)

- 沿革別にみると「自由」の実感について「ある」を回答したのは、「旧制大学」の比率が高い(52%)。
- 「どちらともいえない」の回答比率は、昭和期設置の新制大学(45%)、平成以降の設置大学(48%)で高い。しかし、その比率は「ある(肯定的回答)」の回答比率と大きく異なるほどでもない。

※ 大学校風として「自由」を感じるという回答傾向が強いのは「旧制時代」に設置された「私立」の「大規模大学」といえる。また、それを実感するのは「卒業生」の回答に多い。旧制期設置された私学にあって、現在大規模大学に発展している大学は、その建学の理念に「自由」や「自治」を標榜する場合も多い。

※ これに対し、新制大学として設置された国立大学「中規模」大学の回答では、「自由という校風を実感する」という回答比率はさほど高くない(「ない」または「どちらともいえない」が多い)。「ない(否定的回答)」については教員からの回答にその傾向があった。

## 設問Ⅳ 「自由」という校風をめぐる設問

### 2. 【ご回答任意】

「自由」という校風を実感したご経験があれば、どのような場合でしょうか。(自由記述)

※ 任意回答の自由記述を紹介します。

#### 【自由記述紹介】

- ・「自由」という言葉を含んだ創設者の理念を学生も好んで使う傾向がある。(大学職員、私立小規模専門大学・芸術系大学)
- ・「不自由を感じない自由」があると考え。(卒業生組織関係者、国立小規模専門大学)
- ・積極的な活動(教育・研究)を促進している点。自らが学力の育成に努めている点。カリキュラムの選択、学生の多様な価値観尊重、クラブ活動等。(大学教員、私立小規模医療系女子大学)
- ・「ロフト」という、学生の居場所を作ることにより、学生相互の交流が自然発生している。(大学職員、公立小規模芸術系大学・大学院大学)
- ・必修科目や必要単位数などはあるがその他選択科目等は好きな科目を選択できたし、留学する国も第二外国語として選択している国以外に行くことができた。教職員も学生の意見や希望を尊重してくれた。(留学生含め様々な価値観を持つ学生がいて、長期休暇時含めて留学に行く学生が多いなどみんなやりたいことを謳歌していた。)(保護者組織・同大学の卒業生、保護者組織で事務職を担当、私立大規模総合大学)
- ・20つのメジャーと4つのマイナーから専攻を選び、自分が望む「学びの形」を作りあげていきます。(保護者組織・父母の会事務局長、私立小規模総合大学)
- ・3ポリシーの中にうたわれている(大学教員、私立小規模医療系大学)
- ・カリキュラムの選択(卒業生組織関係者・大学の卒業生、国立中規模総合大学)
- ・カリキュラムの選択、学生の意見や考えを尊重する点、一人ひとりに寄り添った学修支援(大学職員・同大学の卒業生、私立小規模女子大学)
- ・カリキュラムの選択、服装(大学教員・同大学院修了・同窓会関係者、公立小規模医療系大学)・カリキュラムの選択など(大学職員・専任事務職員、保護者組織(後援会)事務局、同窓組織(同窓会)の活動援助、私立大規模総合大学)
- ・カリキュラム選択、演習指導、ゼミ・サークル以外の正課外活動。(大学職員・同大学卒業、私立大規模総合大学)
- ・カリキュラム選択、研究指導。(大学職員・広報・入学部門次長/卒業生、私立大規模総合大学)
- ・ゼミにおける研究課題の自由性。(卒業生組織関係者・同窓会専務理事、私立大規模総合大学)
- ・ゼミの卒論のテーマが学生各々で様々な分野に広がっていて自由だった。(卒業生組織関係者、国立大規模総合大学)
- ・やってみる、やってしまうことが許容されること。(保護者組織関係者、私立中規模総合大学)
- ・何を研究内容に選んでも、サポートしてくれる工房や先生を見つけられる。(卒業生組織関係者、私立中規模芸術系大学)
- ・学園祭(大学祭)開催するに当たり、自由な体験をした。(卒業生組織関係者、公立中規模大学)
- ・学園祭の企画から運営までを学生の実行委員会が中心となり行っている。学生生活に対して教員の介入が少なく、研究指導時にも束縛されない。(大学教員・同窓会役員兼務、同大学の卒業生、公立小規模医療系大学)
- ・学校法人から独立した大学運営。(大学職員、小規模医療系大学)
- ・学祭等での学生金権委任。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・学生が新たな取り組みを立ち上げたいと手を挙げたときに、それを支援する仕組み・姿勢がある。(大学職員、私立中規模専門大学)
- ・学生さんの主体性を尊重している。(卒業生組織関係者、私立中規模総合大学)
- ・学生による学食メニューの開発。(大学職員、私立小規模専門大学)

- ・学生のみなさんが主となって取り組んでいる大学祭には自由を感じる。(保護者組織、私立中規模総合大学)
- ・学生の価値観を尊重する考え方。(大学職員、私立中規模女子大学)
- ・学生の自主性に任せた学修や文化活動(サークル、学園祭)。(大学教員、国立小規模大学)
- ・学生の自主性を重んじた大学行事の企画・運営、学生自治会からの大学への要望・提案等。(大学職員、私立小規模医療系女子大学)
- ・学生の自主的な活動等を促進する。(大学職員・入試広報担当職員、私立小規模総合大学)
- ・学生の自由で豊かな想像力を活かした卒業研究(作品の制作)。(大学職員、私立小規模芸術系大学)
- ・学生の主体性を大切に、応援する教職員が多いところ。(大学職員、私立中規模女子大学)
- ・学生の多様な価値観。(大学教員・講師・同大学の卒業生・同窓会副会長、国立小規模医療系大学)
- ・学生は自由に学んでいます。しかし、それを自覚していることがないのが残念です。(大学教員、国立中規模総合大学)
- ・学生への多様な支援。(大学職員・同大学(同法人=中高)の卒業、私立中規模女子大学)
- ・学生時代、ボランティアの卒業委員会に所属し、卒業生向けの記念品、謝恩会等々の企画を、自由に進めさせてもらった。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・学生主体の学園祭。(大学職員・広報室職員、私立中規模総合大学)
- ・学部を超えた研究指導体制(他学部のゼミを受講が可能であったり、場合によっては他学部ゼミの研究を卒業研究にするなど)があり、教育機会の提供という面では自由度が高い。(大学教員・評議員、国立中規模専門大学)
- ・希望の企業や業種へ就職するために学生は個々で自由に様々な活動を行っていた。(卒業生、私立中規模総合大学)
- ・大学教員の勤務が自由(大学職員・非常勤の総務課職員であり、校友会の事務に専従しています。国立中規模総合大学)
- ・研究室にもよりますが、学生の意向をできるだけ汲む。(大学教員・大学の卒業生、同窓会事務局長、私立中規模専門大学)
- ・語学修得と異文化理解を活かした多種多様な就職先。(大学職員・同大学卒業、同窓会事務局長・理事を兼任、姉妹校の専門学校の校友会・大学の同窓会の上部同窓会組織の事務局長を兼任、私立中規模専門大学)
- ・国家試験の合格率を気にしない学生達の多さに触れたとき(卒業生組織関係者・大学職員を定年退職し、同窓会職員となった。私立小規模医療系大学)
- ・時代のニーズ、社会のニーズ、学生個別のニーズ、教職員のニーズ等に柔軟に対応するという意味での自由さは常に大学としてもっていたいと感じます。本学ではいろいろな側面から学生アンケートを実施しており、教職員からの改善提案も自由にさせていただくことを心がけています。そこで得られた情報をベースに、できることは随時柔軟に対応しており、そのたびに「自由」を感じます。(大学教員、国立小規模大学院大学)
- ・自由の捉え方が様々であると思うが、資格取得のためにカリキュラムは必修科目が多く、学生にとって履修は厳しさがありますが、学園祭や球技大会などのイベントは学生主体で開催しており、大学生活を楽しんでいると感じます。(大学職員、私立小規模医療系大学)
- ・実習や決められた行事以外は服装や髪形にこれと言った制限もなく、ある程度の自由度を感じた。また、研究テーマについても、ある程度自分の本当にやりたいことを研究させてくれたという点で、個人的には自由さを感じた。ただ、個人差は大いにあると思う。(卒業生組織関係者、私立中規模総合大学・専門職大学)
- ・守衛は配置されているが、門、塀がないため週末等も含め学外者の構内散歩等出入りが自由。(卒業生組織関係者、私立中規模専門大学)
- ・授業の推奨科目はあるが、必須科目はない。たくさんのマイナスを0にするより、いくつかのプラスをさらに伸ばすことにより学生の自主性を醸成するように努めている。(卒業生組織関係者、公立中規模総合大学)
- ・出講日数が週5ではないこと。(大学教員、私立大規模総合大学)
- ・新島穰のことばかり。(卒業生組織関係者、私立大規模総合大学)
- ・束縛されない研究活動。(大学職員・同大学卒業同大学卒業、国立大中規模総合大学)
- ・束縛されない研究指導。(卒業生組織関係者・大学の卒業生、国立中規模総合大学)

- ・他学部他学科の授業履修が可能。Semester制度により授業の取り方も自由度が高い。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・他者を認めて活動ができること。(ひとりひとりの人格と主体性を尊重していること) (大学職員、私立中規模総合大学)
- ・他大学の事例ですが、芸術系大学の課題(1 授業の最終課題等でも)における Twitter などのツイートを見たりすると、良い課題の与え方をすると「形式自由」であっても学生自身が張り切って、取り組むものなんだと感じる機会が多い。また、ピアサポート活動が盛んな大学の情報を見ると、自由のために自身が行う義務や守るべきルールをきちんと理解できている様子が伺える。ルールで縛らなくても周囲への配慮など、モラルがしっかりしているように感じます。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・大学祭の実行委員の経験。(卒業生組織関係者・同窓会副会長、公立小規模医療系大学)
- ・大学周辺の人々の優しさや包容力。(卒業生、私立大規模総合大学)
- ・長期休業期間などにおける時間的制約が少ないため、様々なことに挑戦できる。(大学職員兼・同窓会役員、国立中規模総合大学)
- ・特段束縛されることなく、好きにさせてくれるので。授業、ゼミ、サークル等。自由でない大学の方が少ないと思います。(卒業生、公立中規模総合大学)
- ・特別活動拘束する規制は無いので、基本的に自由である。但し、教員も学生自身もマナーや品位を大事にするので、自らを律する校風がある。(卒業生組織関係者、国立小規模教員養成系大学)
- ・父母の会では独自に様々な事業を行っていますが、大学の理解・協力のもと実行できています。(保護者組織父母の会担当の大学職員、私立大学中規模総合大学)
- ・服飾造形において自由な表現できる。(卒業生組織関係者、私立小規模専門大学)
- ・母校では学部にとらわれず自由に授業を選択できた。研究についても学部時代は軽いテーマであっても論文の書き方のマナーを学ぶことが主眼と許された。多様な価値観を生かしてくれた。(大学職員、公立小規模医療系大学)
- ・本学では建学者である初代学長の意思に基づき「自由自治」を強く謳っている。入学式で配られる建学の理念を示す小冊子にもそのことは示されており、学内には自由自治の石碑を置いている。学園祭でもその意識はあったものの、近年の学生の意識の変化などもあり、弱まっている。(大学職員・卒業生組織事務担当兼卒業生組織役員、私立中規模総合大学：芸術系)
- ・本学は自由であることより管理している。しかし学生は元気だという不思議な校風。(卒業生組織関係者・同窓会会長、私立中規模総合大学)

#### 設問Ⅳ 「自由」という校風をめぐる設問

##### 3.【ご回答任意】

「自由」という校風が、大学により効果をあたえるとすれば、どのような点でしょうか

または、好ましくない影響を与えるとすればどのような点でしょうか。お考えをお聞かせ下さい。(自由記述)

#### よい影響があるとすれば

##### 自由記述

- ・研究時の発想に利となる。(大学職員、公立小規模芸術系大学：大学院大学)
- ・「自由」のなかで、学生が主体的に判断できる点。(大学職員、公立中規模総合大学)
- ・学生が自発的に考えたり主体的に行動する力が身につく、学生と教職員の間のコミュニケーションや校風にいい意味でアップデートができそう。(保護者組織・同大学の卒業生であり、(保護者組織で事務職を担当、私立大規模総合大学)
- ・学生の自立心を高める。「自由」には必ず「責任」が伴うということを学ぶ機会になる。(卒業生組織関係者、公立小規模総合大学)
- ・能動的な活動につながる点は良いと考える。学生の主体性を育み、創造的に物事を考え発展させていること。(大学教員、私立小規模医療系女子大学)
- ・くだらない・遊びだと思われることでも追及すれば新たな発見につながるなど発想を常に柔軟にできる。(大学職員、公立小規模医療系大学)
- ・これからの社会において、なにものにも縛られない「自由」な発想は大切だと思っています。創造していく力とそれを実現していく力が大学で培われていくのであれば、「自由」な校風は素晴らしいと思います。(大学教員、私立小規模女子大学)
- ・その人を一人の人として尊重し、信頼する気持ちを感じます。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・その大学の独自の校風(母性愛)は、主体性・協調性・コミュニケーション力・企画力を育む機会として役立っていると思われます。(大学職員、私立小規模医療系大学)
- ・のびのび育ち長所が伸びる。(卒業生組織関係者・同窓会専務理事、私立大規模総合大学)
- ・マナーや礼儀のもとに自由があるという理解があれば責任ある行動が伴う教養による影響があると思う。自分が置かれた環境の中で精神性の自由を得ることで、創造力や発想力が身に付くのではないかと思う。またそうすることで大学の信頼にもつながるのではないかと思う。(大学職員・同大学の卒業生、私立中規模女子大学)
- ・意思をもってあらゆることに臨むことができ、そこに集う面々に好影響を与える循環ができる点。(大学職員・専任事務職員として保護者組織(後援会)の事務局・同窓組織(同窓会)の活動援助、私立大規模総合大学)
- ・何かあった場合、自身が責任を取らなければならないということが理解できるようになる。(大学職員・都市部の弁護士事務所からの転職、国立中規模総合大学)
- ・可能性をどこまでも制限なく伸ばしていける。(大学職員・基金・後援会(保護者会)・同窓会担当、国立中規模総合大学)
- ・過度な制限を受けないことで、あらゆることに抵抗なく挑戦したり広い価値観を認められる人材が育つ可能性がある。(大学職員、国立小規模専門大学)
- ・学修への主体性が高まる、創造的で発展的な学修の場であると期待がされる。(大学教員・同大学の学部卒業生・大学院修了生・学部同窓会役員、公立小規模医療系大学)
- ・学生、教職員が深淵と元気な活動をする素地になる。(大学職員、私立中規模医療系総合大学)
- ・学生・大学双方にとって、今までにない新しい価値観を生み出せる可能性がある。(大学職員、私立中規模女子大学)
- ・学生がさまざまな才能を開花させることで学生同士の刺激となり大学が活性化する。(卒業生、私立中規模総合大学)

- ・学生がのびのびと学生生活を送ることができる。(大学教員・同大学の卒業生・同窓会副会長、国立小規模医療系大学)
- ・学生が生き活きとした学園生活を送れること。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・学生が自主的に活動できる。(大学職員・同大学の卒業、私立小規模女子大学)
- ・学生が様々なことに失敗を恐れずに挑戦しやすくなる点。(大学職員・広報室、私立中規模総合大学)
- ・学生のすこやかな成長。(保護者組織(教育後援会・保護者会等)の関係者、私立規模総合大学)
- ・学生のやりたいことに関して相談や支援をしてもらえる。(在校生、国立中規模総合大学)
- ・学生の可能性を妨げにくい。(大学職員・同大学卒業、私立大規模総合大学)
- ・学生の個性が強調される。(大学教員、私立小規模大学)
- ・学生の自発的な姿勢の養成や行動力を促す。(大学教員、私立小規模女子大学)
- ・学生の主体性が育まれる。(大学教員・大学教員と同窓会役員の兼務、公立小規模医療系大学)
- ・学生の主体性を引き出す。(大学教員・同大学院修了・同窓会関係者、公立小規模医療系大学)
- ・学生の主体性を生かすことができる。(卒業生組織関係者、公立小規模医療系大学)
- ・学生の将来性の幅が広がる。(大学職員、私立中規模女子大学)
- ・学生の人格面の成長を促す。学生の人生によい思い出となる。(大学教員、国立小規模大学)
- ・学生の創造性を高める。(卒業生組織関係者・財務担当理事・大学講師、公立小規模医療系大学)
- ・学生の探究心が伸びる。(大学教員・同大学の卒業生・同窓会の事務局長、私立中規模専門大学)
- ・学生は全ての機会に挑戦する自由を有する。(大学職員・役職者、私立小規模専門大学)
- ・学生や教職員の柔軟な発想・思考が養えると思う。(卒業生組織関係者、私立小規模医療系大学)
- ・活動の活発化。(大学職員・広報・入学部門次長・卒業生、私立大規模総合大学)
- ・継承することだけでは成長・発展は望みにくいと思うので、最初から否定をされない、自由が認められることは大事だろう。(卒業生組織関係者、国立小規模教員養成系大学)
- ・計画力と実行力、創造力を養う訓練になる。そのことが応用力と適応力を備えた人材育成に繋がる。(大学職員、私立小規模専門大学)
- ・個人の発想力・創造力で制作された作品の高い技術力とその評価。(大学職員、私立小規模芸術系大学)
- ・個人を尊重する自由は良いと思う。(卒業生組織関係者・同窓会会長、私立中規模女子大学)
- ・校風における「自由」を、“在学生の自主性を重んずる風土醸成”と解釈すると、「自由」な校風によって在学生が自主性を持って各々教育・研究・課外活動など興味・関心がある分野で活発に活動してもらえる。在学生の利点としては学修成果がより高まるのではないかと考える。また、本学の利点としては対外アピールや学生募集で好影響を与えると考えられる。(大学職員、私立中規模医療系大学)
- ・構成員の意欲・主体性の増加。(大学教員、国立中規模総合大学)
- ・高校までの教育によって押しつぶされていた個性が開花する可能性がある、自分で学んだり好きなことを探求する能力の向上が期待できる。(大学教員、私立中規模女子大学)
- ・自らが伸ばしたい部分を伸ばせる。(卒業生組織関係者、私立小規模医療系大学)
- ・自己責任を踏まえた上で、自由を大切にす校風が学生の自主性を育てることに寄与すると考える。(大学職員・入試広報部長、私立中規模総合大学)
- ・自主性が培われる点が良い点かと思えます。(大学職員兼・同窓会役員、国立中規模総合大学)
- ・自主性の尊重、潜在能力の発揮につながる。(卒業生組織関係者・同窓会事務局長・同大学卒業生、国立中規模専門大学：語学及び世界の地域研究の大学)
- ・自主性をはぐくむ。(大学職員、国立小規模専門職大学)
- ・自身の責任でやりたいことを見つけ成果を出せる。(大学職員、私立中規模総合大学)
- ・自発的な活動が促進し、モチベーションが保たれる。(大学職員、私立小規模医療系大学)
- ・自分の本当にやりたいことを周囲が制限をかけることなく楽しく学ぶことが一番大切だと感じる。それにより学生自身が本来持っている個性や能力を伸ばすことに繋がると思う。(卒業生組織関係者、私立中規模総合大学：専門職大学)
- ・自由＝やりたいことが存分にできると考える志願者が増えることが予想されるため、学修意欲の高い学生が増えるのではないか。(大学職員、公立小規模医療系大学)



- ・自由から、型にはまらない多様な発想が生まれ、研究や教育に良い影響を与えます。(大学教員、国立中規模総合大学)
- ・自由という言葉をうのみにし、自己主張をするが責任をもって行動できない。(大学教員、私立小規模医療系大学)
- ・自由と多様性を重んじている点。(大学教員、私立中規模総合大学)
- ・自由には結果の責任を伴うものであり、保守的な学生は規律を求むが、現代社会では自由を活用できるスキルが必要。表層的な「自由賛美」でなく、批判的思考に基づく「自由の活用」が求められる。(大学教員・教授・評議員、国立中規模専門大学)
- ・自由に制作ができること。(卒業生組織関係者、私立小規模専門大学)
- ・自由に伴う自立ができればいい。(大学職員、私立中規模総合大学)
- ・自由のなかで、自らの道を見いだせればとても素晴らしいことです。(大学教員、国立中規模総合大学)
- ・自由の裏には責任あり。物事について自分のアタマで考える力の養生。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・自立。(大学教員、国立小規模大学院大学)
- ・社会人になるまでに、勉学の専門性、交友関係、アルバイトによる社会経験等を自分自身で選択することができるので、後の人生に幅を持たせてくれる。(卒業生、公立中規模総合大学)
- ・主体性の醸成。新たな大学の支援や学生の活動が創造される可能性。(大学職員・卒業生、私立中規模介護・福祉領域系大学)
- ・主体性やリベラルアーツのイメージと結びつき、学問に対する前向きな姿勢のベースがつくられる。(大学職員・広報室主幹専門職、国立中規模総合大学)
- ・主体性や自由な発想をえることができます。価値観は多様であることを学生に伝えることが可能です。(卒業生組織関係者、私立大規模総合大学)
- ・就職してからの自主性の伸長、探究心の深化を感じることができる。(卒業生組織関係者、公立中規模総合大学)
- ・助け合いの人間形成。(大学職員、同大学・(同法人＝中高)の卒業、私立中規模女子大学)
- ・伸び伸びと過ごせる学生生活。(卒業生、私立大規模総合大学)
- ・人としての成長。(卒業生組織関係者・同窓会副会長、公立小規模医療系大学)
- ・人文科学分野での知識の発展、文化の興隆。(卒業生組織関係者、国立大規模総合大学)
- ・精神的自由そして表現の自由をベースに創作活動を行っている。(大学職員、私立小規模専門大学：芸術系大学)
- ・先入観や前例に束縛されない他者とのコミュニケーションやアイディアの発想。批判的思考を持った他学生や教員とのコミュニケーションや議論。(大学職員・同大学卒業、同窓会事務局長・理事兼任・姉妹校の専門学校の校友会と大学の同窓会の上部同窓会組織の事務局長を兼任、私立中規模専門大学)
- ・前述した通り、常にinnovativeであり、進歩し続ける大学であること、でしょうか。(大学教員、国立小規模大学院大学)
- ・創造的な発想が生まれる。(大学職員、私立小規模女子大学)
- ・卒業後の活躍。(卒業生組織関係者、国立大学中規模総合大学)
- ・多様な価値観。(大学職員、私立小規模医療系大学)
- ・多様な価値観や創造、主体性、発展に繋がる可能性がある。(大学教員・卒業生組織(同窓会)の関係者、公立小規模医療系大学)
- ・多様な考え、意見の尊重。(大学職員、私立中規模女子大学・専門大学)
- ・多様性が育まれる。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・大学の活性化。(保護者組織父母の会担当の大学職員、私立中規模総合大学)
- ・大学の魅力になる。自発的な行動の増加。自分自身で考える力がつく。(在学生、国立中規模総合大学)
- ・発想の自由さ。風通しがよい。(大学職員、国立小規模大学院大学)
- ・放任になってしまう可能性があるため、教育成果等に影響が出る。(大学職員、入試広報担当職員、私立小規模総合大学)

- ・本学が「自由」ではないので考えにくいのですが、学生の主体性が育つのかもしれません。(大学教員、私立小規模医療系大学)
- ・本人がやりたい事につき進める。結果的に、卒業後面白い活動をしている卒業生が多いと感じる。(卒業生組織関係者、私立中規模芸術系大学)
- ・様々な夢をもった学生が、その大学を志望すること。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・良い効果として、学生のニーズに合わせて大学が改革されていくこと。(大学職員、私立小規模医療系大学)：女子大学)

#### 設問Ⅳ 「自由」という校風をめぐる設問 (自由記述)

##### 「自由という校風」が好ましくない影響を与えるとすれば

- ・他者(他学生)の自由と衝突する⇒調整する⇒自由が制限される。(大学職員、公立小規模芸術系大学)
- ・「自由」と「無法」をはき違える可能性がないとは言えない。(大学教員、国立中規模総合大学：医歯薬看護)
- ・「自由」と「無法」をはき違える学生が出る場合がある。(卒業生組織関係者、公立小規模総合大学)
- ・「自由」に伴う「自立」がなければ、判断を誤る可能性があると感じます。(大学教員、私立小規模女子大学)
- ・「自由」の意味をはき違え、自己の利権のみを追求し、社会的、一般的な価値観を損なう可能性がある点。(大学職員・保護者組織(後援会)の事務局・同窓組織の活動援助担当、私立大学大規模総合大学)
- ・規律が乱れる可能性はある。学生が自律していない場合には自由を履き違え解釈すること(本学の場合は、好ましくない影響はほとんど見受けられない)。(大学教員、私立小規模医療系女子大学)
- ・地域の方々からみた印象の低下。(保護者組織、私立大規模総合大学)
- ・いきすぎると大学教育の本来の目的からそれてしまう可能性がある。(大学職員、私立中規模女子大学)
- ・コロナ禍のような統制が求められる状況で制御がきかない。(大学教員、国立小規模医療系大学)
- ・そこには責任が伴うことを忘れること。(大学職員・役職者、私立大学小規模専門大学)
- ・ハメを外すような自由は建設的ではなく好ましくないと考える。(卒業生組織関係者、国立小規模教員養成系大学)
- ・モラルの低い集団においては、自分の「自由」だけを主張し、周囲の「自由」を侵害していることに気づかないことになる。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・やりたいことが思い浮かばない。好きなことが分からない者の活動性の低下。(大学教員、国立中規模総合大学)
- ・わがままな自由は排除したい。(卒業生組織関係者・同窓会会長、私立中規模女子大学)
- ・一体感の喪失。(大学職員・広報・入学部門次長/卒業生、私立大規模総合大学)
- ・一定のルールを逸脱する可能性があるため社会的評価を損なうことが考えられる。(大学職員、私立小規模専門大学)
- ・一般的な社会ルールやモラルに反した行動や言動。自由とルール無用や利己的な思考を同等に捉えること。(大学職員・同大学卒業・同窓会事務局長・理事兼任、姉妹校の専門学校の校友会と大学の同窓会の上部同窓会組織の事務局長を兼任、私立中規模専門大学)
- ・学業やその他の活動を選べない、決められない場合に不安・不満が増える。(大学職員・同大学卒業、私立大規模総合大学)
- ・学校法人が自治権の侵害。(大学職員、私立小規模医療系大学)(医歯薬看護)
- ・学修活動等への取り組みが十分でない学生が出る。(大学教員、国立小規模大学)
- ・学習に対してどの程度の努力をするかは学生の自由ですが、それに対する評価はあくまで厳正に行っており、それを取り違える学生がたまにいます。(大学教員、国立小規模大学院大学)
- ・学生のニーズは変わっていくため、その都度変えていくと大学の伝統や校風が不透明になっていくこと。(大学職員、私立小規模医療系女子大学)(医歯薬看護)
- ・学生の年齢で責任をとれるか。(卒業生組織関係者・同窓会副会長、公立小規模医療系大学)(医歯薬看護)
- ・学長任期が長く、学生を押しやっている雰囲気や教職員のヤル気が年々なくなっている。(保護者組織、公立小規模医療系大学)(医歯薬看護)

- ・甘えからくる迷惑行動。(卒業生、私立大規模総合大学)
- ・管理が難しい。(大学教員・卒業生組織(同窓会)の関係者、公立小規模医療系大学)(医歯薬看護)
- ・教育者の無責任さにつながります。母校はあまりに無干渉な大学でしたので、逆にあれこれ様々に指導、支援する大学(たとえば卒論や研究テーマも教授が決めるという)に、うらやましきを感じることもありました。教員は学生に全く指導しない割には、当時、ずいぶん高給取りだったような・・・。(卒業生組織関係者、私立大規模総合大学)
- ・経営的な側面、支援人材の手配。(大学職員・同大学(同法人＝中高)の卒業、私立中規模女子大学)
- ・警察沙汰になるようなことをしてしまう学生が一定数出てくる。(大学教員・同大学の卒業生・同窓会副会長、国立小規模医療系大学)(医歯薬看護)
- ・個人の自由な振る舞いが、学業をおろそかにすることにつながりはしないか。(大学職員入試広報部長、私立中規模総合大学)
- ・好ましくない影響は与えないと思います。(大学職員、私立大学大規模総合大学)
- ・治安の悪化。自発的に行動できる力がない(受動的だ)と色々な経験がしづらい。(在学生、国立中規模総合大学)
- ・自己責任と自助努力の下で自由に振る舞う者の「自由」だけを真似する者が必ずいる。(卒業生組織関係者、私立小規模医療系大学)(医歯薬看護)
- ・自分で自分を律せないと何もしない場合があることかと思えます。(大学職員兼：同窓会役員、国立中規模総合大学)
- ・自分で目標を設定できなければ墮落した生活を送る可能性がある。(大学教員、私立中規模女子大学)
- ・自由＝放任されていると感じる人が増えれば、しっかりと自分と向き合って育成してほしいと考える学生にとっては不安が生じるのではないか。(大学職員、公立小規模医療系大学)(医歯薬看護)
- ・自由すぎて、まったく何もしなければ無意味な時間となり、将来が不安になる。(卒業生、公立中規模総合大学)
- ・自由という責任を知らなすぎる。(大学職員、私立中規模総合大学)
- ・自由と放任を混同している教員も多くいます。また、自由をあたえず管理することを重視する教員もいます。自由と管理、教員にとっては難しい課題です。(大学教員、国立中規模総合大学)
- ・自由な時間を有意義に使うことができる学生とそうでない学生と、学生が二極化する可能性があり、後者の学生が増えた場合に大学教育の質が低下する恐れがある。(卒業生、私立中規模総合大学)
- ・自由な場を自分で考えて行動できない学生が増えた今は、まず本人が何をしたいかを周りのサポートが必要と思う。(卒業生組織関係者、私立中規模芸術系大学)
- ・自由な発想で創造性もあるイベントなどの開催は推奨されるが、一定の社会ルール(大音量で近隣に迷惑を及ぼしたり、清掃マナーなど)は必要だと思います。(大学職員、私立小規模医療系大学：介護・福祉領域)
- ・自由のはき違い。(大学職員、国立小規模専門職大学)
- ・自由の意味をしっかりと認識することで好ましくない影響はないと考える。(大学職員・同大学)の卒業生、私立中規模女子大学)
- ・自由の意味をはき違えた場合。ルールがある場合は一線を越えるべきではない。(卒業生組織関係者・同窓会の事務局長、国立中規模専門大学：語学及び世界の地域研究の大学)
- ・自由の意味を履き違えた一部の人間が大学の評価を貶めるような行為をする可能性がある。(大学職員、国立小規模専門大学)
- ・自由の名のもとに人の迷惑を顧みない行為が起きることが考えられるが、一定以上の教養があれば縛らなくても自ずとやらないのでは。(大学職員、公立小規模医療系大学)(医歯薬看護)
- ・自由をはき違えると、なんとなく自己中心になりやすいような。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・自由度が高いことで、言動に影響を及ぼすと考える。節度のある言動が取れない場合もある。(卒業生組織関係者、私立小規模医療系大学)
- ・自律。(大学教員、国立小規模大学)
- ・社会人基礎力を培うことができない。(卒業生組織関係者・財務担当理事、大学講師、公立小規模医療系大学)

- ・主体性や自主性が身につけていない学生が疎外感を感じたり、何もしなくなる可能性がある点。(大学職員・広報室職員、私立中規模総合大学)
- ・主体性や非認知能力が低い学生が多くなるほど、組織の活気が失われてしまう。(大学職員、私立大規模総合大学)
- ・責任のない自由を主張したがる。(大学職員、基金・教育後援会(保護者会)・同窓会担当、国立中規模総合大学)
- ・責任の所在(卒業単位修得)をどうするのか(制約がある自由なのか)。(大学教員、私立小規模大学)
- ・責任をもって行動できない。(大学教員、私立小規模医療系大学)
- ・他者との交流を経て受容する経験知を重視しながらも、それに伴うリスクに対しての意識が伴わない場合、社会的な流れなどに左右される一面もあるのではないか。(大学教員、私立小規模女子大学)
- ・怠惰になりかねない。(卒業生組織関係者、国立大規模総合大学)
- ・地味になる、暗くなる。(大学職員・主査、私立中規模女子大学)
- ・仲間意識の高さ。(大学職員、国立小規模大学院大学)
- ・統制がとれない。予算におさまらない。大学上層部との価値観が合わなくなる。(大学職員、私立小規模介護・福祉領域系大学)
- ・独善的。(大学職員、私立小規模医療系大学)
- ・反社会的な行為。(保護者組織関係者、私立中規模総合大学)
- ・風紀の乱れを招き、大学の評価に好ましくない影響を与える可能性がある。(大学教員・大学教員と同窓会役員の兼務・同大学の卒業生、公立小規模医療系大学)
- ・服装などでいえば礼儀などを重んじなくなるのではないか。(大学教員・同大学院修了・同窓会関係者、公立小規模医療系大学)
- ・本学は医療系の大学ですので、国家試験合格のためにカリキュラムも詰まっており、とても「自由」な選択をできる状況にありません。「自由」という校風が全面に出れば、単位認定や卒業案件に直結する可能性はあるかとも思いますが。(大学教員、私立小規模医療系大学)
- ・本学は医療系専門職の養成を目的としており、全在学生在が国家試験を受験する前提でカリキュラムが作られている。国家試験合格には多くの試験勉強量・時間が必要となるため、「自由」な校風による学生の自律性・自主性だけに頼ってしまうと国家試験合格率の低下、ドロップアウトの懸念がある。(大学職員、私立中規模医療系大学)
- ・本学は初代学長の意思を受け、「自由自治」を校風として尊重しているが、教育研究活動上の自由と自治であるにもかかわらず、教職員の「自由なふるまい」などに誤解しているきらいが見られる。また自治機能が教職員組織も学生組織も弱く、自治あつての自由という認識が乏しい。(大学職員・卒業生組織事務担当兼卒業生組織役員、私立中規模総合大学：芸術系)
- ・無気力の人は何もやらない。(大学教員、同大学卒業生・同窓会事務局長、私立中規模専門大学)
- ・無責任な意見の助長。(大学職員、私立中規模女子大学：専門大学)
- ・無責任な言動に繋がりやすくなる懸念がある。(大学職員、私立中規模介護・福祉領域系大学)
- ・目標が見いだせない場合、何も得られず時間が過ぎる可能性がある。(大学職員・同窓会・本学卒業生、私立中規模介護・福祉領域系大学)
- ・与えられることに慣れた学生が増えてきているように感じられる。(卒業生組織関係者、公立中規模総合大学)

## 最終設問【ご回答任意】

### 自由記述

最後の質問です。「大学校風」に関し、お考えやお感じのことあれば、何でも結構ですので自由にお書き下さい。

母校のこと、ご経験したこと、思い出すこと等、お気兼ねなくご教示ご披露いただければ幸甚です。

また、これまでの設問に関する補足や説明があれば、ここに記載してください。

- ・大学といっても各学部ごとに歴史や風土・文化などが大きく異なる。しかも教員の構成が年々変化するのでそうしたものも変化している。しかしながら底流にあるものはしっかりと守っていきたいと思う。(国立中規模大学、「新制大学」として昭和期設置。前身は旧制専門学校として明治期に創設)
- ・昨今、大学にどこに入っても同じというような、均一化を感じることもあるが、「校風」は大学を表す象徴的な特徴であり、「校風」が確立されているならば、大学の差別化は図られると思います。(大学職員、私立大規模大学、旧制大学として戦前設置)
- ・母校は、藩校、旧制高校からの歴史のある学校です。OB や教職員が、「市街地中心部から郊外に移転してしまい独自色が薄まった」と嘆いていたことを思い出しました。それでも在校時から歴史とプライドは学生に脈々と受け継がれていると感じています。(卒業生組織関係者、国立大規模大学、新制大学として戦後昭和期設置)
- ・母校は旧制高校でしたが、キャンパスも移動してしまい、歴史的なつながりがある校風(たとえば校歌を宴会のときに歌ったりする行為)はなくなってしまったように思っています。一方、勤勉さや誠実さなど、人として大切なものは校風として引き継がれていると思います。(卒業生組織関係者、国立中規模大学、旧制大学として戦前設置)
- ・本学は2007年に開学した比較的新しい大学であり、開学後も順次医療系の学科を設置し続け規模を拡大してきました。そのため、学科によっては卒業生が少なく、教職員も近年本学へ赴任・就職された方が多く、全学的に統一された校風・共通認識の定着は、まだまだ発展途上ではないかと思っています。今後歴史を重ね、卒業生が本学教員として就職するケースや教職員が大学へ定着することで大学校風が徐々に形づくられるのではないかと思います。(大学職員、私立中規模大学、平成年代以降設置)
- ・新制大学として戦後昭和期設置された国立大学にしては、校風が明確です。そのことに気がつく学生は少なく、これを示唆する教員もいません。卒業生(組織)が、校風継承に重要な役割を担っています。教員にこの大学の出身者が少なく、「母校意識」も皆無で、あわよくば「転任」してしまう現状であり、教員が校風の継承の役割を担うことは困難かもしれません。教員も執行部も、校風などには無頓着です。(大学教員、国立中規模大学、新制大学として戦後昭和期設置)
- ・校風を感じるほど前面に出すのがいいのか、校風を感じさせないような校風が良いのかわからない時があります。今は尖った大学が評価される時代ですね。(大学職員、国立中規模大学、旧制大学として戦前設置)
- ・いわばその大学の歴史と感じます。そこには長短ではなく、どの時代をどういった信念に基づいて高等教育の分野を担ってきたかが重要であると感じており、積み重ねが将来の校風を作り、ブランディングに繋がっていくものと思っています。(大学職員、私立大規模大学、旧制大学として戦前設置)



- ・古い卒業生は大学が大好きで、後輩思いの方が大変多くいらっしゃる、「自分のためだけに働く」のではなく、「他者のために自信を犠牲にして奉仕する」気概があることも本学の校風に少なからず影響をもたらしているのではないかと思います。(大学職員、私立中規模大学、新制大学として戦後昭和期設置)
- ・小規模大学だからこそ、時代や教職員による校風への影響が大きく感じます。(大学教員、公立小規模大学、平成年代以降設置)
- ・校風のことなど、実際にこれまで考えた事がなかった。(大学教員、国立中規模大学、新制大学として戦後昭和期設置)
- ・新設大学での教員経験もありますが、「大学校風」は、学生によって創られることを実感しています。大学の理念、建学の精神など当然教職員が共有したうえで、学生をどう育てていくのか議論し続けていました。結局、在学生が何を成してきたか、卒業生がどう活躍しているのかが答えになっていたように思います。現在、歴史と伝統を掲げる大学に所属していますが、「うちの学生は、優しい、穏やかな雰囲気がある(ポヤポヤしているなどとも言います)」であるとか「うちの卒業生らしい」とか教員同士でよく話をします。歴史や伝統など重たいもののように感じますが、そこに、学んできた人たちの醸し出す雰囲気のようなものが目に見えない形で「校風」となっているようにも感じます。もちろん、それが、理念とか建学の精神だとかを体現化したかたちなのかもしれません。(大学教員、私立小規模大学、新制大学として戦後昭和期設置)
- ・「校風」というものを明確に意識したことがありませんでした。近年、大学のミッションを重視する傾向が強まっており、その1つとして校風を明確化することは有用に感じられました。(大学教員、国立小規模大学、新制大学として戦後昭和期設置)
- ・比較的、卒業生の母校愛が強い大学と思いますが、何がそれを作ったのか思い返すと結局は関わった人との交流がそれを作ったなと感じます。(卒業生組織関係者、私立中規模大学、新制大学として戦後昭和期設置)
- ・大学の歴史や伝統が校風に反映され、それを継承していくことが今までの在り方だったかもしれないが、時代は変わり学生数も減少していく中、それに固執するよりも、時代やその時代の学生の資質に合わせた校風に変容させていくことがこれからは大事なのではないと思う。(卒業生組織関係者、私立中規模大学、旧制大学として戦前設置)
- ・高校が「受験、進学」を第一義においた教育指導であり、偏差値がすべての「物差し」でした。それに対し、入学した大学は、価値観も人物も多様でそれぞれのことが尊重、評価されていることに興奮しました。こうした校風をいつまでも保ち続け、輝き続けてほしいものです。そうした母校を卒業生は支援します。(卒業生、私立大規模大学、旧制大学として戦前設置)
- ・建学の理念が継承されながら、時代にあった大学の長が【校風】として感じられるのが何よりだと思います。不思議なことに、学生の雰囲気からが一番【校風】を感じられますが、そこを育成する教職員は、「建学の精神」を忘れがちになり、研究等・業務の在り方向き合い方の価値観に【校風】が隠れてしまっています。学生をともに観察し続けることで、この部分が随分解消されると考えます。ただそれをどう、実施していくとよいのか、難しい限りだと感じます。(大学職員、私立中規模大学、新制大学として戦後昭和期設置)
- ・卒業生組織関係者同窓会の運営にも影響するが、最も重要な原則は母校愛であり、多世代に亘りその心は受け継がれ、それが校風にも影響している。(卒業生組織関係者、国立中規模大学、新制大学として戦後昭和期設置、卒業生組織関係者)

以上で報告を終わります。ご回答協力に心より御礼申し上げます。

○ 研究調査実施メンバー（2023年5月）

大川 一毅（研究代表者）（岩手大学 評価室 教授）

研究総括、調査総括、報告執筆

大野 賢一（鳥取大学 学長室 教授）

アンケート設計、収集情報分析

鳶田 敏行（茨城大学 全学教育機構 教授）

アンケート調査表ウェブ設計、収集情報分析

（※2023年11月より大学改革支援・学位授与機構 研究開発部 教授）

山本尚史（筑紫女学園大学 人間科学部 講師）

アンケート調査結果分析、報告書校閲

井上美香子（福岡女学院大学 人文学部 現代文化学科 講師）

アンケート調査結果分析、報告書校閲

2023年3月実施

「大学校風をめぐる意識調査(アンケート)」集計報告

(2023年10月発行)

日本学術振興会科学研究費助成事業：基盤研究(C)

「大学校風の指標可視化と大学評価への活用に向けた実証的研究」

課題番号 22K02705、2022年～2025年

(<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K02705/>)

発行代表、及びご連絡・お問い合わせ

研究代表者 大川 一毅

〒020-8550 盛岡市上田 3-18-8 岩手大学 評価室

電話 019-621-6018 kazuki55@iwate-u.ac.jp